

# 第5章 子どもの居場所

## 1. 放課後の過ごし方

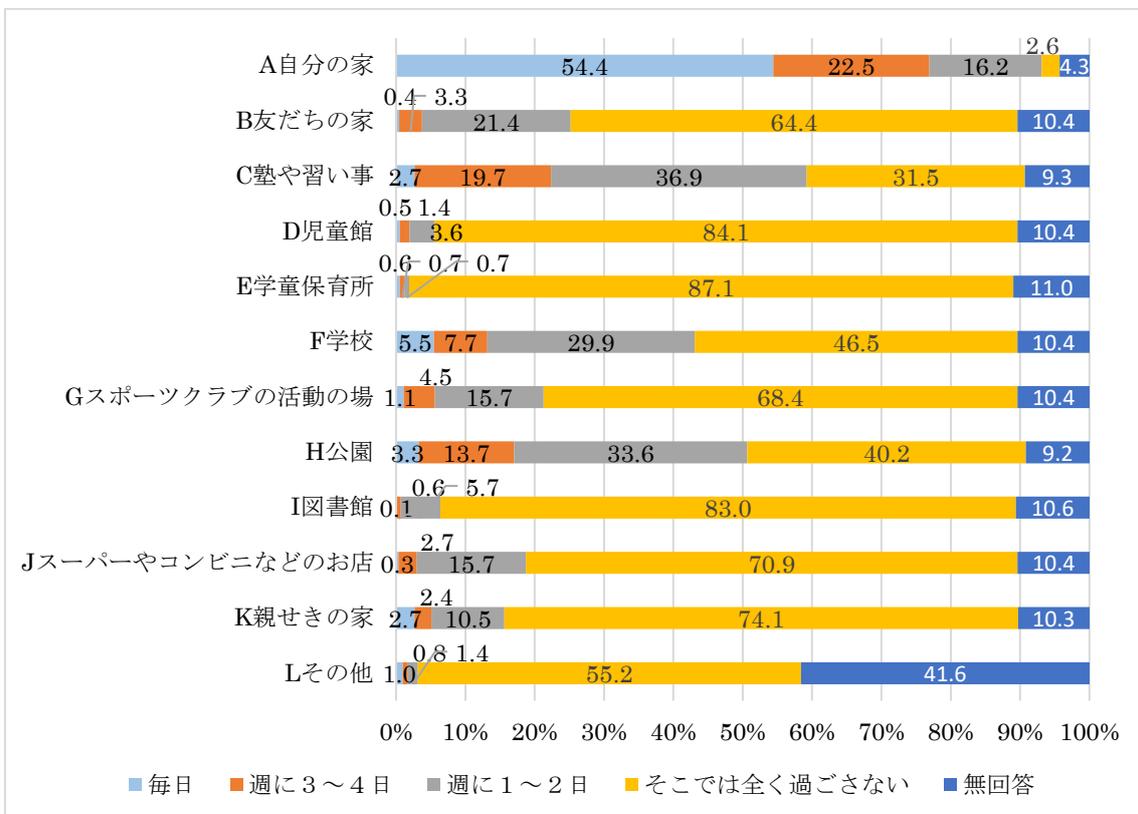
### (1) 平日の放課後に過ごす場所

子どもが平日の放課後に過ごす場所について、子ども票の間 7「あなたは、平日(学校に行く日)の放課後(夕方 6 時くらいまで)、どこで過ごしますか。1 週間のうち、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。」を用いて集計した。

その結果、小学 5 年生では、「毎日」「週に 3~4 日」「週に 1~2 日」を合計した割合が多い順に、「A 自分の家」(93.1%)、「C 塾や習い事」(59.2%)、「H 公園」(50.6%)となっている。特に「A 自分の家」については 54.4%が「毎日」、22.5%が「週に 3~4 日」と回答している。前回調査(H29)では、「毎日」「週に 3~4 日」「週に 1~2 日」を合計した割合は「A 自分の家」(91.1%)、「C 塾や習い事」(66.8%)、「G 公園」(53.0%)の順に高い。

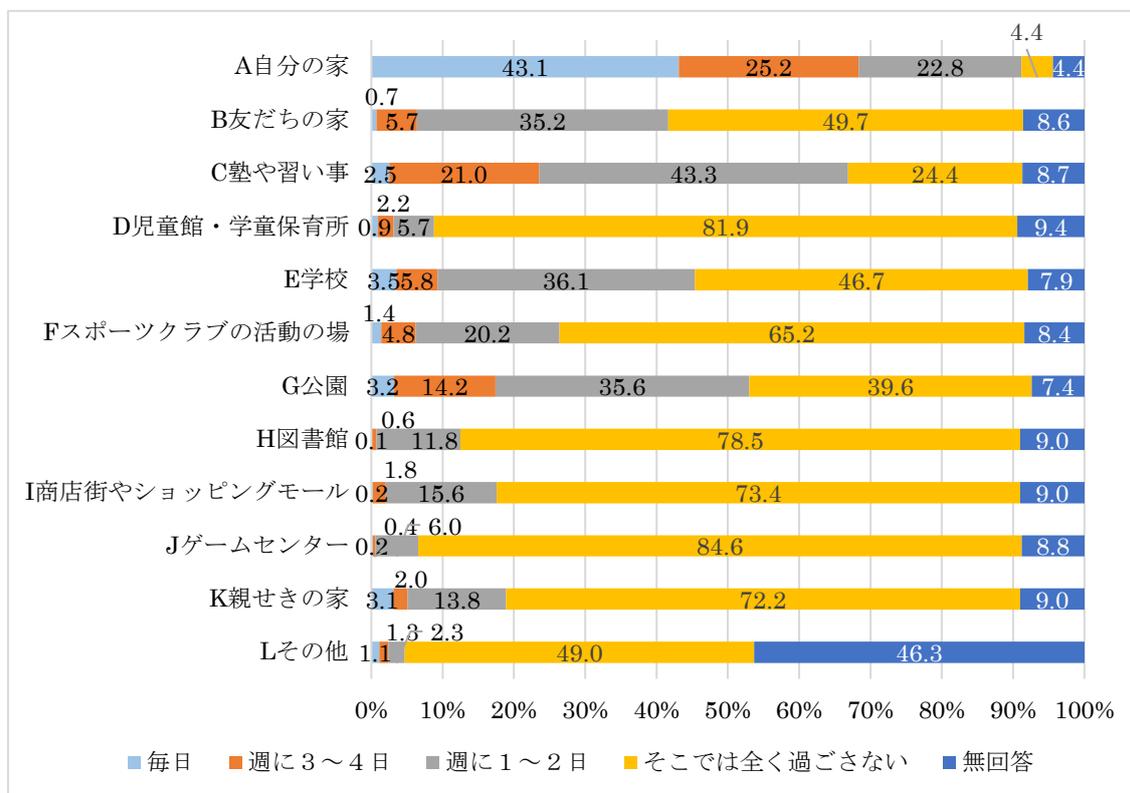
H29 と R4 を比較すると、特筆すべき点として、自分の家で毎日過ごす児童は 11.3 ポイント増加しており、逆に友達の家で週 1 日以上過ごす児童は 16.5 ポイント減少している。

図表 5-1-1 平日の放課後に過ごす場所(小学 5 年生):全体(R4)



※調査票における「F 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」「G スポーツクラブの活動の場(野球場、サッカー場など)」「K おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家」との表記を、作図の都合上「F 学校」「G スポーツクラブの活動の場」「K 親せきの家」とした。

図表 5-1-2 平日の放課後に過ごす場所(小学 5 年生):全体(H29)

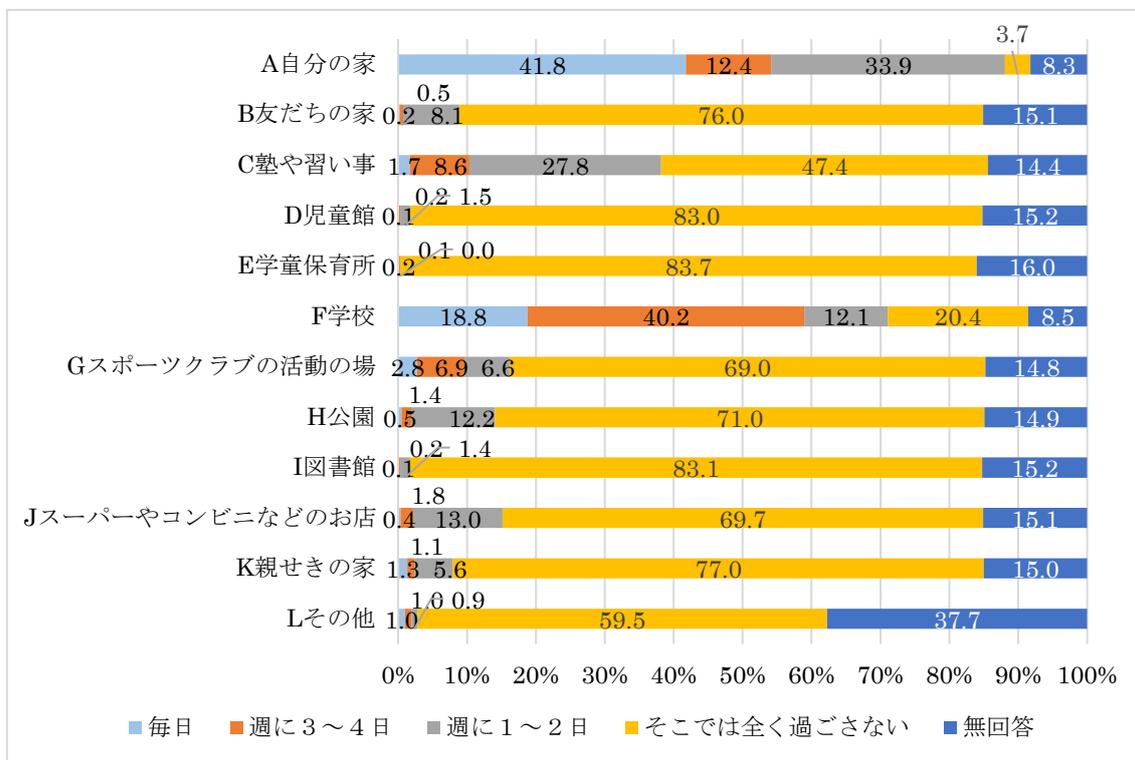


※調査票における「E 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」「F スポーツクラブの活動の場(野球場、サッカー場など)」「K おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家」との表記を、作図の都合上「F 学校」「G スポーツクラブの活動の場」「K 親せきの家」とした。

次に、中学 2 年生についても同様に、平日の放課後の居場所について分析した。中学 2 年生においては、「毎日」「週に 3~4 日」「週に 1~2 日」を合計した割合が、「A 自分の家」(88.1%)、「F 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」(71.1%)、「C 塾や習い事」(38.1%)の順に高い。また、「毎日」「週に 3~4 日」を合計した割合は「A 自分の家」よりも「F 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」の方が高く、「A 自分の家」については 41.8%が「毎日」、12.4%が「週に 3~4 日」と回答しているのに対して、「F 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」については 18.8%が「毎日」、40.2%が「週に 3~4 日」と回答していた。前回調査(H29)では、「毎日」「週に 3~4 日」「週に 1~2 日」を合計した割合は「A 自分の家」(79.9%)、「E 学校」(79.5%)「C 塾や習い事」(37.7%)の順に高い。

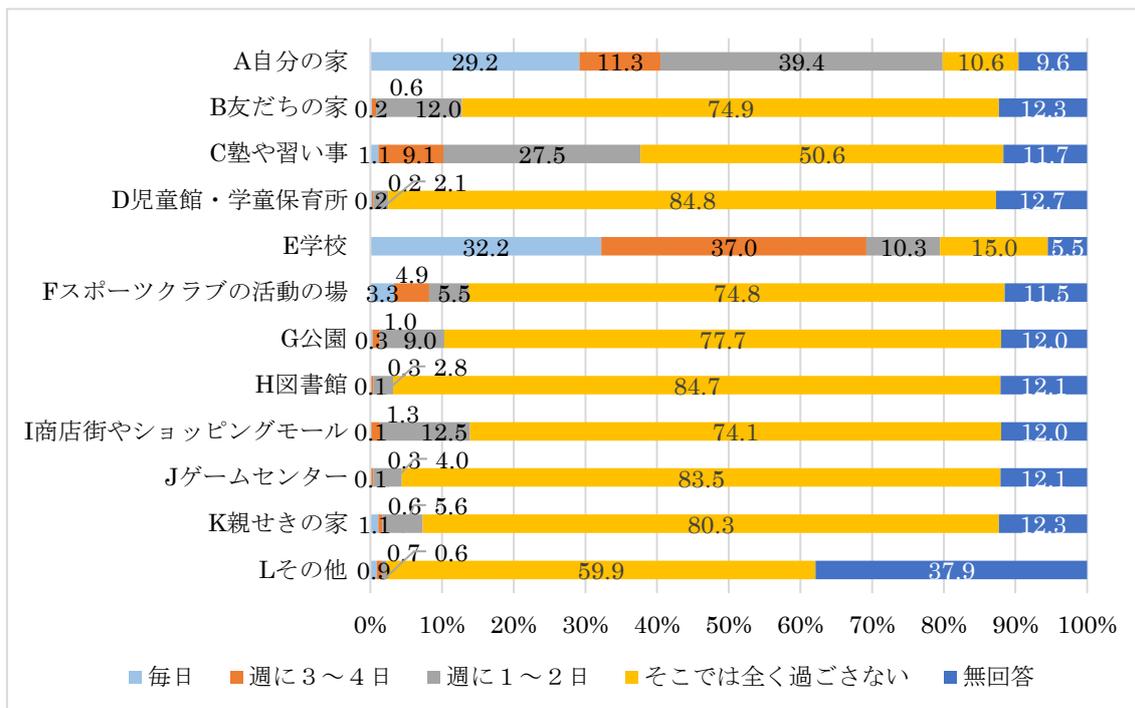
H29 と R4 を比較すると、特筆すべき点として、自分の家で毎日過ごす生徒は 12.6 ポイント増加しており、逆に学校で毎日過ごす生徒は 13.4 ポイント減少している。

図表 5-1-3 平日の放課後に過ごす場所(中学 2 年生):全体(R4)



※調査票における「F 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」「G スポーツクラブの活動の場(野球場、サッカー場など)」「K おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家」との表記を、作図の都合上「F 学校」「G スポーツクラブの活動の場」「K 親せきの家」とした。

図表 5-1-4 平日の放課後に過ごす場所(中学 2 年生):全体(H29)

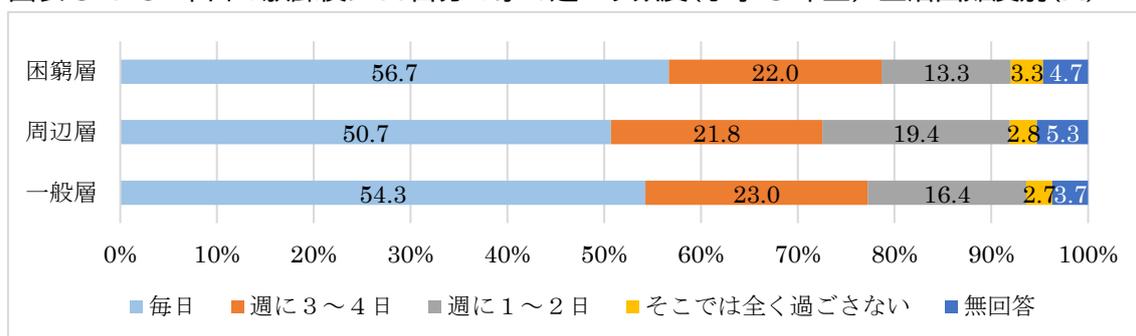


※調査票における「E 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」「F スポーツクラブの活動の場(野球場、サッカー場など)」「K おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家」との表記を、作図の都合上「F 学校」「G スポーツクラブの活動の場」「K 親せきの家」とした。

次に、生活困難度別にそれぞれの項目を集計した。以下では、小学 5 年生の結果について、一部の項目を抜粋して生活困難度による違いを見ていく(すべての項目のうち、「C 塾や習い事」「D 児童館」「E 学童保育所」「F 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」「I 図書館」「J スーパーやコンビニなどのお店」「K おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家」「L その他」で統計的に有意な差が見られた)。

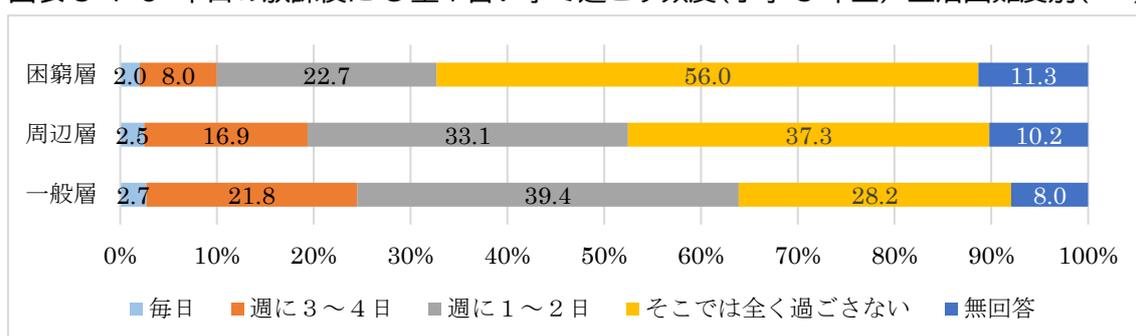
「A 自分の家」については、統計的に有意な差はなく、どの層でも 50%以上が「毎日」、20%以上が「週に 3~4 日」と回答している。

図表 5-1-5 平日の放課後に A 自分の家で過ごす頻度(小学 5 年生):生活困難度別(X)



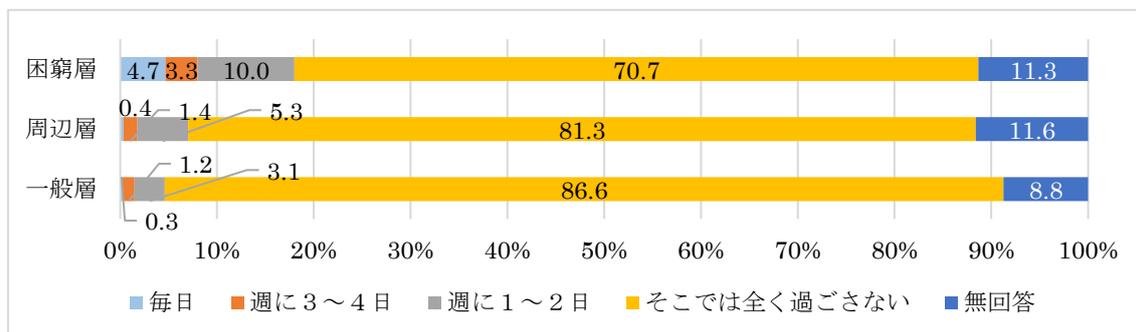
「C 塾や習い事」については、生活困難度が高くなるほど過ごす頻度が低くなっており、統計的に有意な差が見られた。週 3 日以上割合は困窮層では 10.0%、周辺層では 19.4%、一般層では 24.5%であり、週 1 日以上割合は困窮層で 32.7%、周辺層で 52.5%、一般層で 63.9%であった。

図表 5-1-6 平日の放課後に C 塾や習い事で過ごす頻度(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



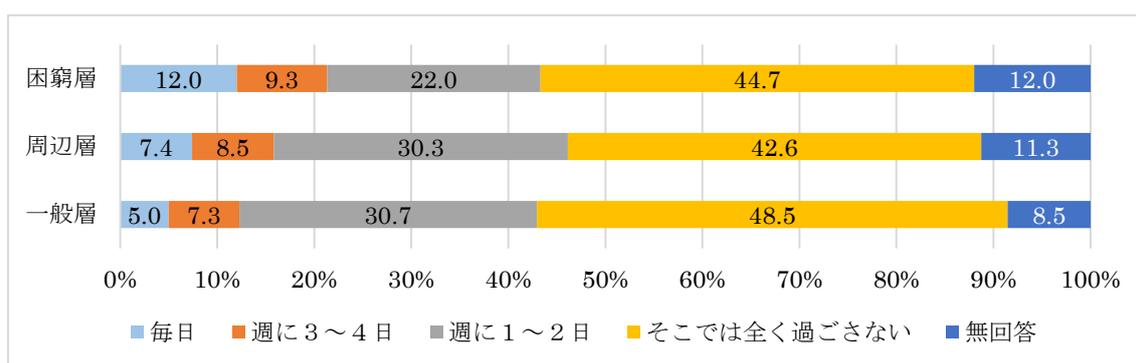
「D 児童館」については、生活困難度が高くなるほど過ごす頻度が高くなっており、統計的に有意な差が見られた。週 3 日以上割合は困窮層で 8.0%、周辺層で 1.8%、一般層で 1.5%であり、週 1 日以上割合は困窮層で 18.0%、周辺層で 7.0%、一般層で 4.6%であった。

図表 5-1-7 平日の放課後に D 児童館で過ごす頻度(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



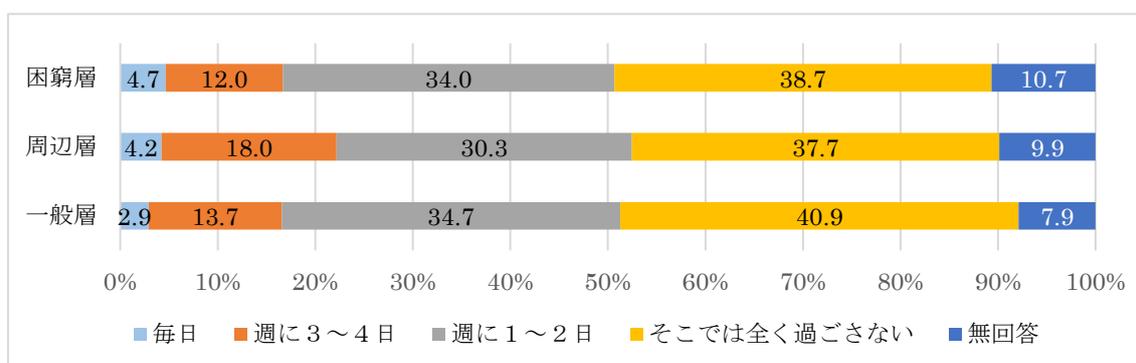
「F 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」についても同様に、生活困難度が高くなるほど過ごす頻度が高くなっており、統計的に有意な差が見られた。週 3 日以上過ごす割合は困窮層で 21.3%、周辺層で 15.9%、一般層で 12.3%であった。

図表 5-1-8 平日の放課後に F 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)で過ごす頻度(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



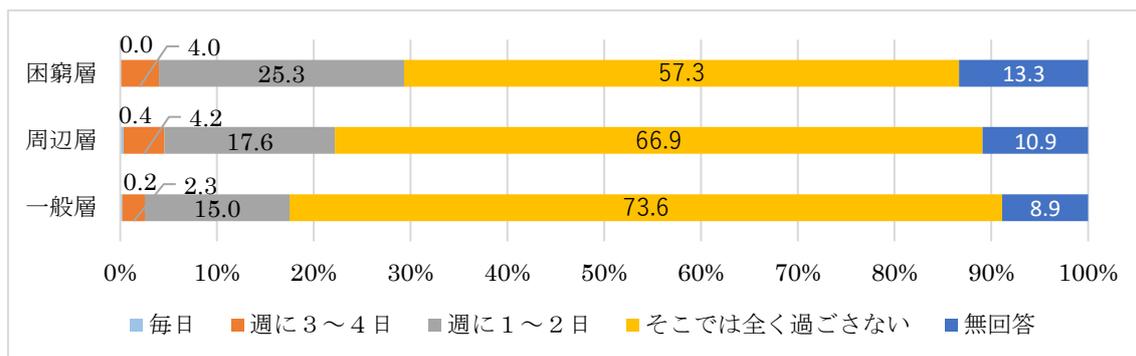
「H 公園」については、統計的に有意な差が見られなかったが、「毎日」と回答した割合は困窮層が最も高く、「週に 3~4 日」と回答した割合は周辺層が最も高い結果となった。

図表 5-1-9 平日の放課後に H 公園で過ごす頻度(小学 5 年生):生活困難度別(X)



「J スーパーやコンビニなどのお店」については、生活困難度が高くなるほど過ごす頻度が高くなっており、統計的に有意な差が見られた。週 1 日以上割合は困窮層で 29.3%、周辺層で 22.2%、一般層で 17.5%であった。

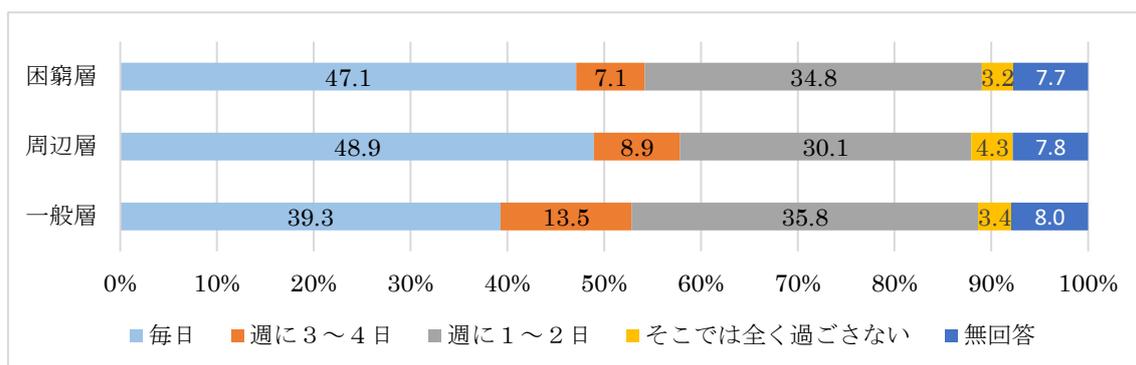
図表 5-1-10 平日の放課後にJスーパーやコンビニなどのお店で過ごす頻度(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



中学 2 年生においても同様に、生活困難度別にそれぞれの項目を集計した。以下では、一部の項目を抜粋して、生活困難度による違いを見ていく(すべての項目のうち、「A 自分の家」「C 塾や習い事」「D 児童館」「F 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」「H 公園」「K おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家」で統計的に有意な差が見られた)。

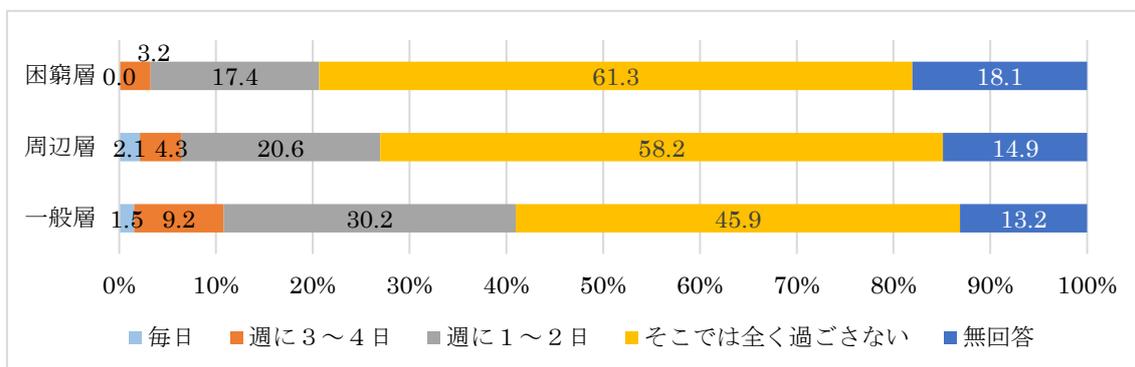
「A 自分の家」については、統計的に有意な差が見られた。特に、毎日過ごす割合は一般層の 39.3%に対して周辺層が 48.9%、困窮層が 47.1%であった。しかし、週に 3~4 日までを含めると、どの層も 5 割から 6 割となっている。

図表 5-1-11 平日の放課後に A 自分の家で過ごす頻度(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*)



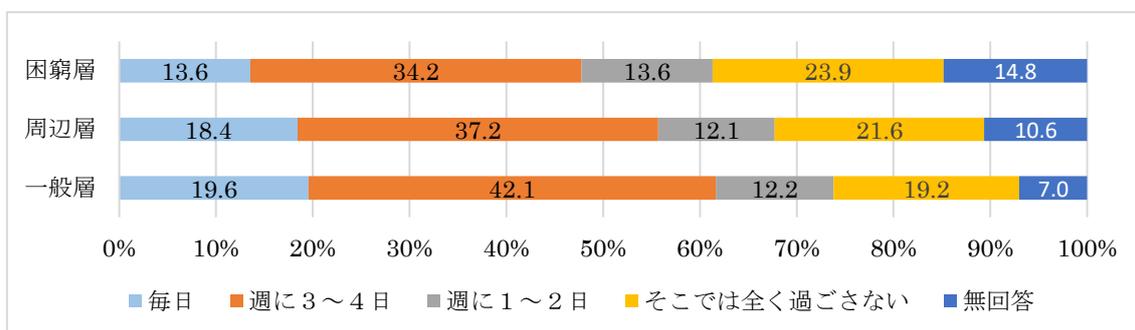
「C 塾や習い事」については、生活困難度が高くなるほど過ごす頻度が低くなっており、統計的に有意な差が見られた。週 3 日以上過ごす割合は困窮層では 3.2%、周辺層では 6.4%、一般層では 10.8%であり、週 1 日以上割合は困窮層で 20.7%、周辺層で 27.0%、一般層で 41.0%であった。

図表 5-1-12 平日の放課後にC塾や習い事で過ごす頻度(中学2年生):生活困難度別(\*\*\*)



「F 学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)」についても同様に、生活困難度が高くなるほど過ごす頻度が低くなっており、統計的に有意な差が見られた。週3日以上過ごす割合は困窮層で47.7%、周辺層で55.7%、一般層で61.6%であり、週1日以上過ごす割合は困窮層で61.3%、周辺層で67.7%、一般層で73.8%であった。

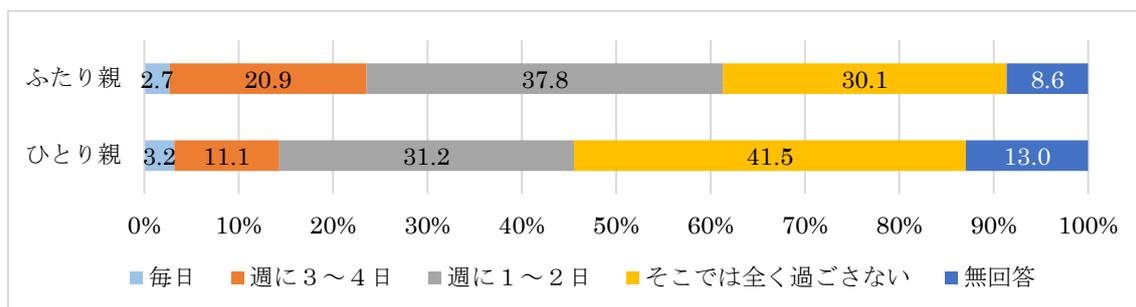
図表 5-1-13 平日の放課後にF学校(クラブ活動、放課後校庭開放、放課後子ども教室など)で過ごす頻度(中学2年生):生活困難度別(\*\*\*)



次に、世帯タイプ別にそれぞれの項目を集計した。以下では、小学5年生の結果について、一部の項目を抜粋して世帯タイプによる違いを見ていく(すべての項目のうち、「B 友だちの家」「C 塾や習い事」「D 児童館」「E 学童保育所」「G スポーツクラブの活動の場(野球場、サッカー場など)」「H 公園」「J スーパーやコンビニなどのお店」「K おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家」「L その他」で統計的に有意な差が見られた)。

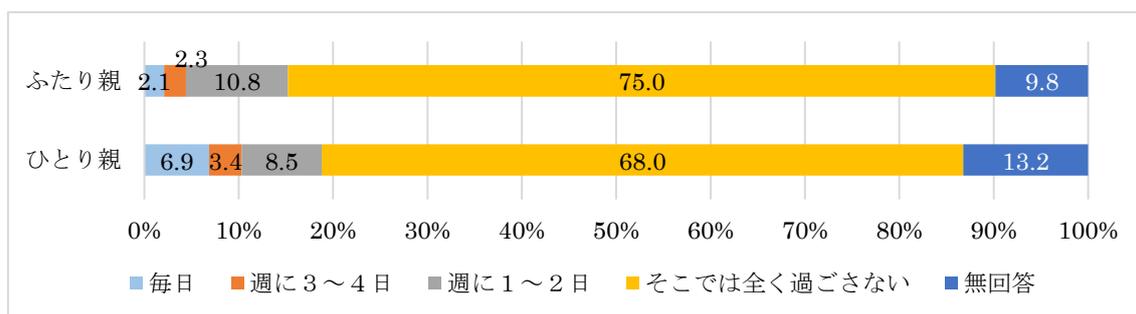
「C 塾や習い事」については、ひとり親世帯のほうが過ごす頻度が低くなっており、統計的に有意な差が見られた。週3日以上過ごす割合はふたり親世帯で23.6%、ひとり親世帯で14.3%であり、週1日以上過ごす割合はふたり親世帯で61.3%、ひとり親世帯で45.5%であった。ただし、毎日過ごす割合はふたり親世帯で2.7%、ひとり親世帯で3.2%とひとり親世帯のほうが高くなっている。

図表 5-1-14 平日の放課後に C 塾や習い事で過ごす頻度(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



「K おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家」については、ひとり親世帯のほうが過ごす頻度が高くなっており、統計的に有意な差が見られた。週 3 日以上はふたり親世帯で 4.4%、ひとり親世帯で 10.3%であり、週 1 日以上はふたり親世帯で 15.2%、ひとり親世帯で 18.8%であった。

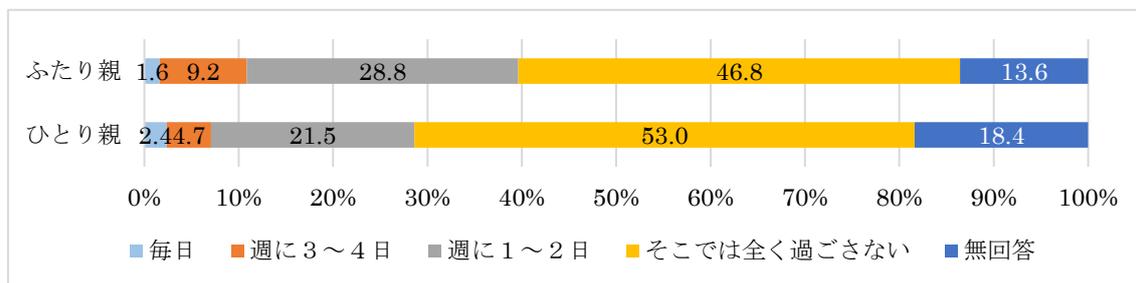
図表 5-1-15 平日の放課後に K おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家で過ごす頻度(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



さらに、中学 2 年生においても、世帯タイプ別にそれぞれの項目を集計した。以下では、一部の項目を抜粋して、世帯タイプによる違いを見ていく(すべての項目のうち、「L その他」以外の項目で、統計的に有意な差が見られた)。

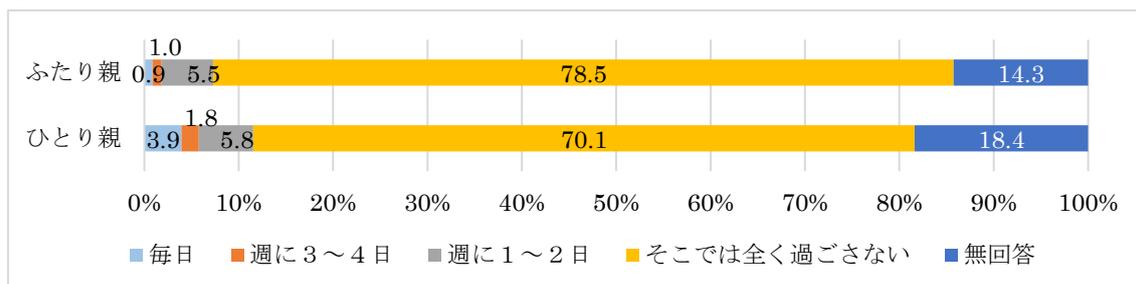
「C 塾や習い事」については、ひとり親世帯のほうが過ごす頻度が低くなっており、統計的に有意な差が見られた。週 3 日以上はふたり親世帯で 10.8%、ひとり親世帯で 7.1%であり、週 1 日以上はふたり親世帯で 39.6%、ひとり親世帯で 28.6%であった。ただし、毎日過ごす割合はふたり親世帯で 1.6%、ひとり親世帯で 2.4%であり、ひとり親世帯のほうが高くなっている。

図表 5-1-16 平日の放課後にC塾や習い事で過ごす頻度(中学2年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



「K おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家」については、ひとり親世帯のほうが過ごす頻度が高くなっており、統計的に有意な差が見られた。週3日以上はふたり親世帯で1.8%、ひとり親世帯で5.8%であり、週1日以上はふたり親世帯で7.3%、ひとり親世帯で11.6%であった。

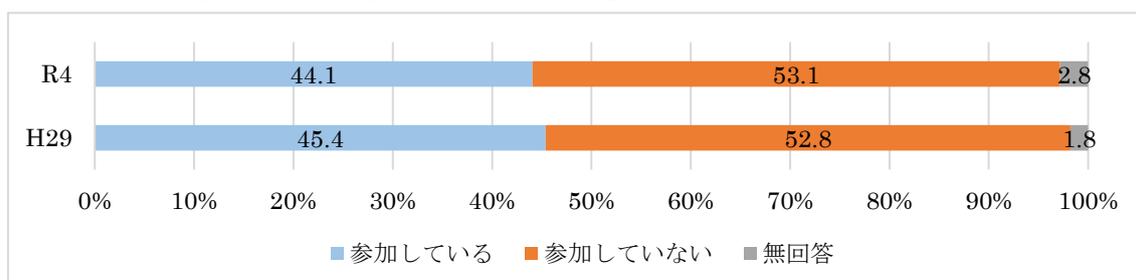
図表 5-1-17 平日の放課後にK おじいちゃん、おばあちゃん、親せきの家で過ごす頻度(中学2年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



## (2) 放課後子ども教室(小5のみ)

小学5年生の放課後子ども教室の参加率を、子ども票の間8「あなたは学校の『放課後子ども教室』に参加していますか。」を利用して集計した。その結果、「参加している」が44.1%、「参加していない」が53.1%であった。また前回調査(H29)では、「参加している」が45.4%、「参加していない」が52.8%となっていた。

図表 5-1-18 放課後子ども教室の参加状況(小学5年生):全体(R4・H29)

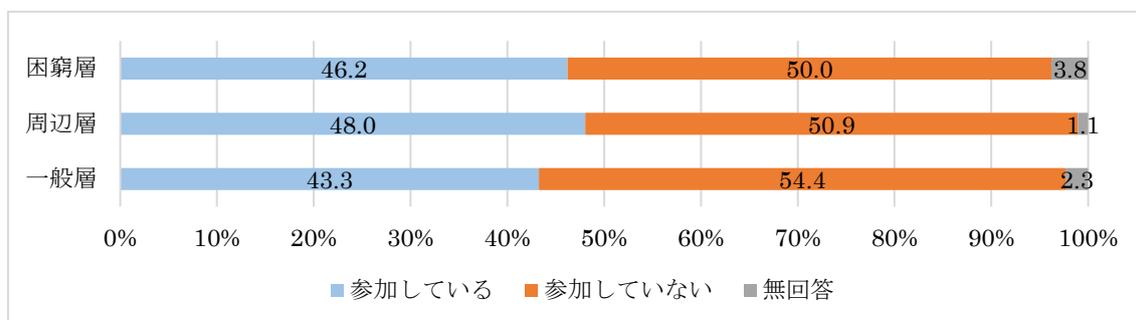


※R4において、子ども票の間8-1「学校の『放課後子ども教室』に『2 参加していない』と答えた人におききます。参加しない理由は次のどれですか。」(複数回答)に回答している場合は、間8の回答を「1 参加している」に修正した。また、間8で「3 中学生であるため、参加できない」と回答している場合は、間8の回答を「2 参加していない」に修正した。

また、小学5年生の放課後子ども教室の参加状況を、生活困難度別に集計した。「参加して

いる」と回答した割合は困窮層で 46.2%、周辺層で 48.0%、一般層で 43.3%であり、層によって数ポイントの違いはあったものの、これらの差は統計的に有意ではなかった。

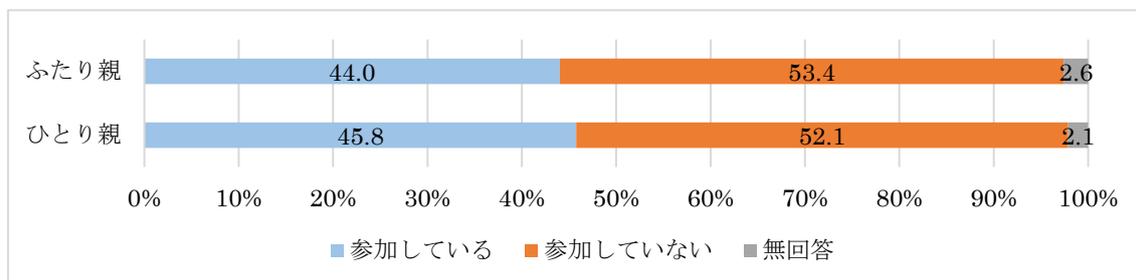
図表 5-1-19 放課後子ども教室の参加状況(小学 5 年生):世帯困難度別(X)



※子ども票の問 8-1「学校の『放課後子ども教室』に『2 参加していない』と答えた人におききます。参加しない理由は次のどれですか。」(複数回答)に回答している場合は、問 8 の回答を「1 参加している」に修正した。また、問 8 で「3 中学生であるため、参加できない」と回答している場合は、問 8 の回答を「2 参加していない」に修正した。

加えて、小学 5 年生の放課後子ども教室の参加状況を、世帯タイプ別に集計した。「参加している」と回答した割合はふたり親世帯で 44.0%、ひとり親世帯で 45.8%であり、これらの差は統計的に有意ではなかった。

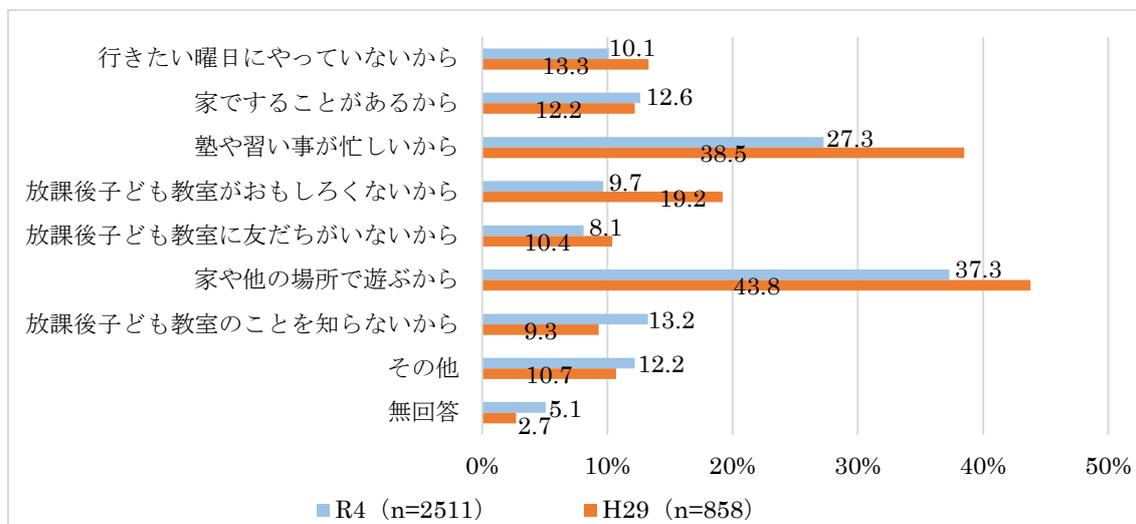
図表 5-1-20 放課後子ども教室の参加状況(小学 5 年生):世帯タイプ別(X)



※子ども票の問 8-1「学校の『放課後子ども教室』に『2 参加していない』と答えた人におききます。参加しない理由は次のどれですか。」(複数回答)に回答している場合は、問 8 の回答を「1 参加している」に修正した。また、問 8 で「3 中学生であるため、参加できない」と回答している場合は、問 8 の回答を「2 参加していない」に修正した。

次に、小学 5 年生の放課後子ども教室の不参加の理由を、子ども票の問 8-1「学校の『放課後子ども教室』に『2 参加していない』と答えた人におききます。参加しない理由は次のどれですか。」(複数回答)を利用して集計した。H29 と比べると「塾や習い事が忙しいから」「放課後子供教室がおもしろくないから」という理由は 10 ポイント程度減少しており、一方で「放課後子ども教室のことを知らないから」という理由は 3.9 ポイント増加している。

図表 5-1-21 放課後子ども教室の不参加の理由(小学5年生):全体(R4・H29)(複数回答)

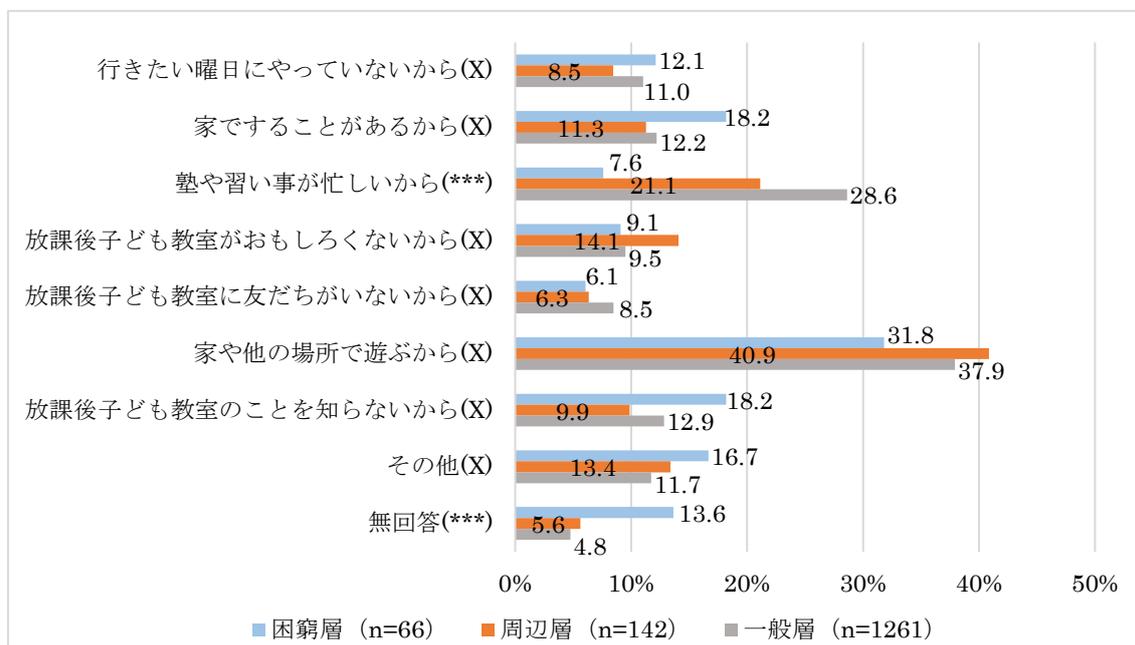


※子ども票の問8「あなたは学校の『放課後子ども教室』に参加していますか。」の回答が「2 参加していない」以外の場合は、欠損処理を行った。

※調査票における「学校でやっていない、または、行きたい曜日にやっていないから」「家ですること(家族の世話、家事、留守番など)があるから」「家や他の場所(友だちの家や公園など)で遊ぶから」との表記を、作図の都合上「行きたい曜日にやっていないから」「家ですることがあるから」「家や他の場所で遊ぶから」とした。

次に、小学5年生の放課後子ども教室の不参加の理由を、生活困難度別に集計した。結果として、他の層と比べて困窮層ほど「学校でやっていない、または行きたい曜日にやっていないから」、「家ですること(家族の世話、家事、留守番など)があるから」、「放課後子ども教室のことを知らないから」と回答した割合が高かったが、これらの差は統計的に有意ではなかった。また、生活困難度が低くなるほど「塾や習い事が忙しいから」と回答した割合が高く(一般層が28.6%、周辺層が21.1%、困窮層が7.6%)、統計的に有意な差が見られた。

図表 5-1-22 放課後子ども教室の不参加の理由(小学 5 年生):生活困難度別(複数回答)

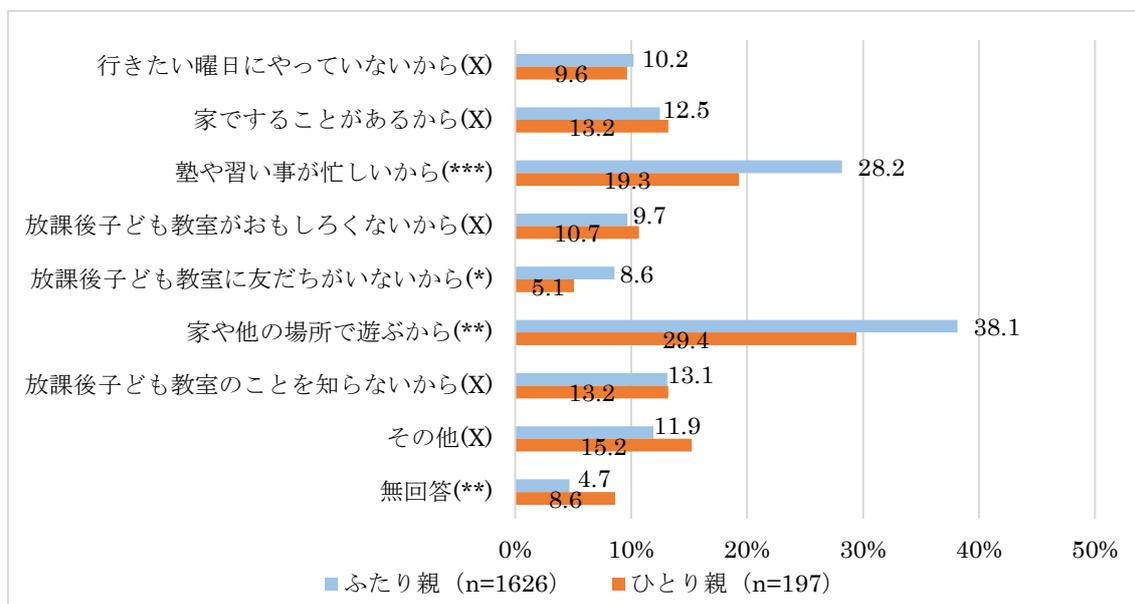


※子ども票の問 8「あなたは学校の『放課後子ども教室』に参加していますか。」の回答が「2 参加していない」以外の場合は、欠損処理を行った。

※調査票における「学校でやっていない、または、行きたい曜日にやっていないから」「家ですること(家族の世話、家事、留守番など)があるから」「家や他の場所(友だちの家や公園など)で遊ぶから」との表記を、作図の都合上「行きたい曜日にやっていないから」「家ですることがあるから」「家や他の場所で遊ぶから」とした。

次いで、小学 5 年生の放課後子ども教室の不参加の理由を、世帯タイプ別に集計した。結果として、ふたり親世帯の方が、「塾や習い事が忙しいから」と「家や他の場所(友だちの家や公園など)で遊ぶから」の割合が高く、これらはひとり親世帯との間に統計的に有意な差があった(「塾や習い事が忙しいから」はふたり親世帯が 28.2%、ひとり親世帯が 19.3%であり、「家や他の場所(友だちの家や公園など)で遊ぶから」はふたり親世帯が 38.1%、ひとり親世帯が 29.4%)。また、ふたり親世帯の方が、「放課後子ども教室に友だちがいないから」と回答する割合が高く、統計的に有意な差は見られた。

図表 5-1-23 放課後子ども教室の不参加の理由(小学 5 年生):世帯タイプ別(複数回答)



※子ども票の間 8「あなたは学校の『放課後子ども教室』に参加していますか。」の回答が「2 参加していない」以外の場合は、欠損処理を行った。

※調査票における「学校でやっていない、または、行きたい曜日にやっていないから」「家ですること(家族の世話、家事、留守番など)があるから」「家や他の場所(友だちの家や公園など)で遊ぶから」との表記を、作図の都合上「行きたい曜日にやっていないから」「家ですることがあるから」「家や他の場所で遊ぶから」とした。

## 2. 運動・家事負担・夕方以降の留守番・家族の世話や介護

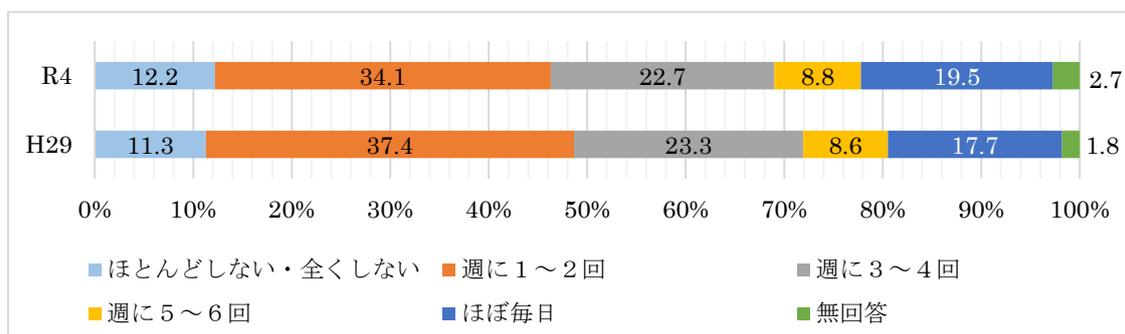
### (1) 運動

ここでは、子どもの運動について見ていく。子ども票の間 12「あなたは、30 分以上からだを動かす遊びや習い事を、1週間どれくらいしますか。」を利用して、運動や習い事をどれくらいの頻度で行っているかを集計した。結果は以下のとおりである。

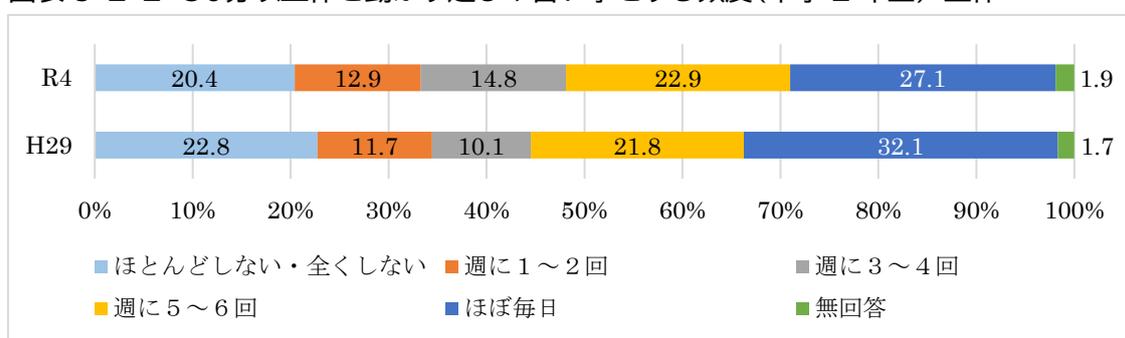
小学 5 年生では、19.5%が「ほぼ毎日」運動している一方、12.2%が運動を「ほとんどしない・全くしない」と答えている。前回調査(H29)では、17.7%が「ほぼ毎日」運動している一方、11.3%が運動を「ほとんどしない・全くしない」と答えていた。

中学 2 年生においては、27.1%が「ほぼ毎日」運動している一方、20.4%が「ほとんどしない・全くしない」と答えている。前回調査(H29)では、32.1%が「ほぼ毎日」運動している一方、22.8%は、「ほとんどしない・全くしない」と答えていた。小学 5 年生に比べると、運動を頻繁にする生徒とあまりしない生徒に二極化していることがうかがえる。

図表 5-2-1 30分以上体を動かす遊びや習い事をする頻度(小学 5 年生):全体



図表 5-2-2 30分以上体を動かす遊びや習い事をする頻度(中学 2 年生):全体

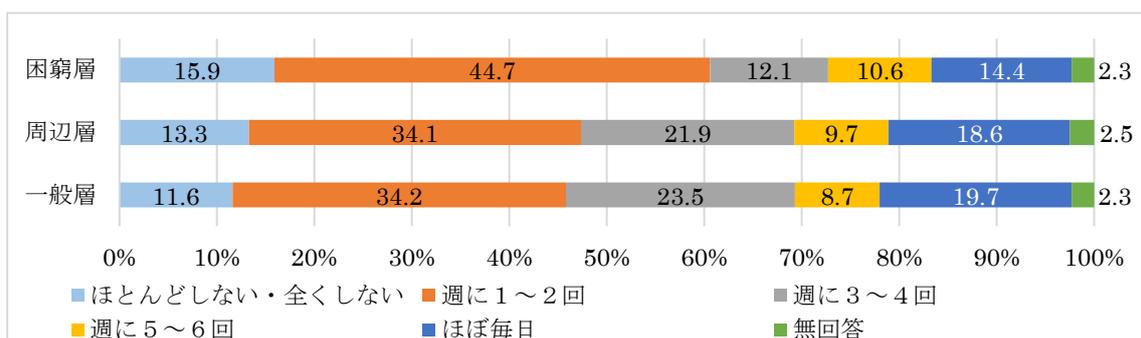


生活困難度別で見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。

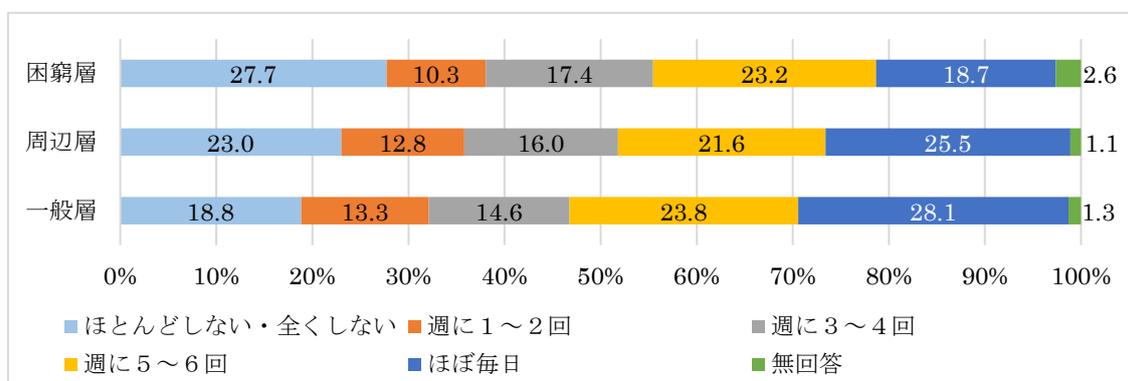
小学 5 年生では、困窮層の 15.9%が「ほとんどしない・全くしない」と回答しており、周辺層の 13.3%、一般層の 11.6%と比べて、それぞれ 2.6 ポイント、4.3 ポイント高くなっている。「ほぼ毎日」と答えている割合は、困窮層が最も低い 14.4%となっており、周辺層の 18.6%、一般層の 19.7%と比べて、それぞれ 4.2 ポイント、5.3 ポイント低くなっている。

中学 2 年生では、困窮層の 27.7%が「ほとんどしない・全くしない」と回答しており、周辺層の 23.0%、一般層の 18.8%と比べて、それぞれ 4.7 ポイント、8.9 ポイント高くなっている。「ほぼ毎日」と答えている割合は、困窮層が最も低い 18.7%となっており、周辺層の 25.5%、一般層の 28.1%と比べて、それぞれ 6.8 ポイント、9.4 ポイント低くなっている。

図表 5-2-3 30分以上体を動かす遊びや習い事をする頻度(小学 5 年生):生活困難度別(\*)



図表 5-2-4 30分以上体を動かす遊びや習い事をする頻度(中学2年生):生活困難度別  
(\*)

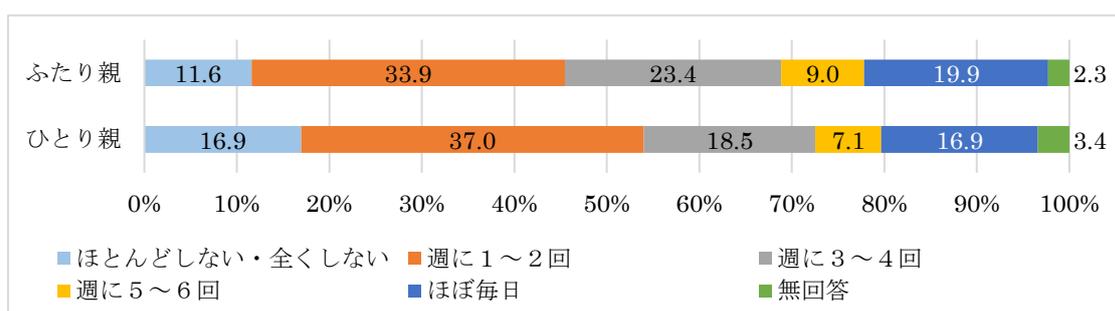


次に世帯タイプ別で見ると、小学5年生、中学2年生のいずれにおいても統計的に有意な差が見られた。

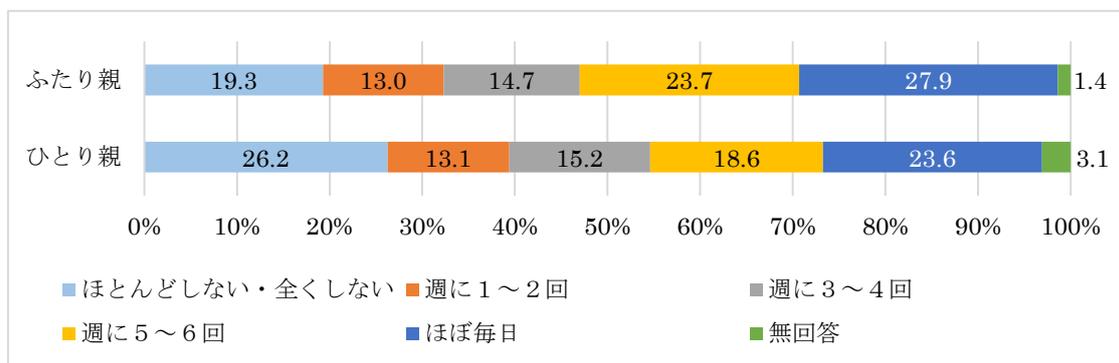
小学5年生では、ひとり親世帯の16.9%が「ほとんどしない・全くしない」と回答しており、ふたり親世帯の11.6%と比べて、ひとり親世帯のほうが5.3ポイント高くなっている。一方で、「ほぼ毎日」と回答している割合は、ひとり親世帯では16.9%となっており、ふたり親世帯の19.9%より3.0ポイント低い。

中学2年生では、ひとり親世帯の26.2%が「ほとんどしない・全くしない」と回答しており、ふたり親世帯の19.3%と比べて、ひとり親世帯のほうが6.9ポイント高くなっている。一方で、「ほぼ毎日」と回答している割合は、ひとり親世帯では23.6%となっており、ふたり親世帯の27.9%より4.3ポイント低い。

図表 5-2-5 30分以上体を動かす遊びや習い事をする頻度(小学5年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表5-2-6 30分以上体を動かす遊びや習い事をする頻度(中学2年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



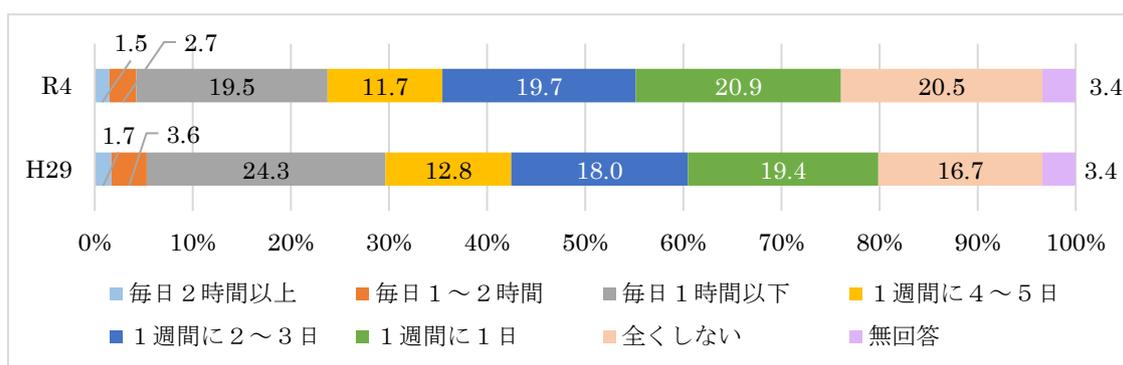
## (2)家事負担

ここでは、子どもの家事負担について見ていく。子ども票の間 11「あなたは、以下の活動を、ふだんどれくらいしますか。」のうち、「F 家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)」について頻度を聞いた。集計結果は以下のとおりである。

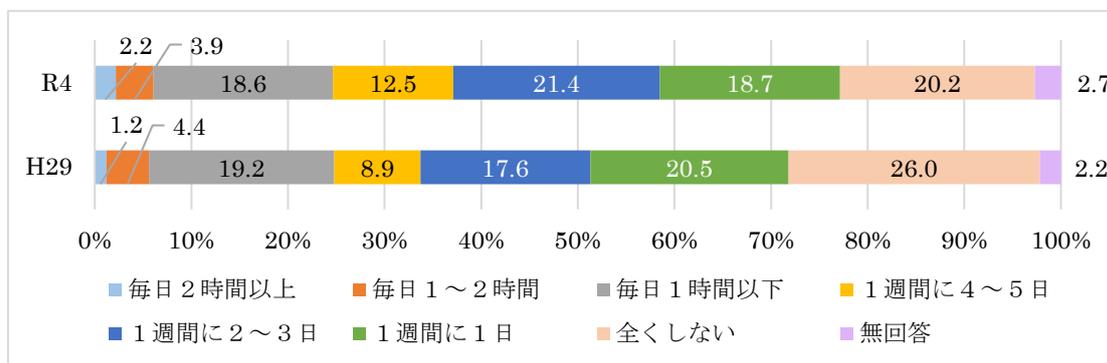
小学5年生では、家事を「全くしない」と回答したのは20.5%である一方、家事を「毎日2時間以上」している割合は1.5%、「毎日1~2時間」している割合は2.7%である。前回調査(H29)では、家事を「全くしない」と回答したのは16.7%であった。また、家事を「毎日2時間以上」している割合は1.7%、「毎日1~2時間」している割合は3.6%であった。

中学2年生では、家事を「全くしない」と回答したのは20.2%である。また、家事を「毎日2時間以上」している割合は2.2%、「毎日1~2時間」している割合は3.9%である。前回調査(H29)では、「全くしない」と回答したのは26.0%であった。また、家事を「毎日2時間以上」している割合は1.2%、「毎日1~2時間」している割合は4.4%であった。

図表5-2-7 家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)をする頻度(小学5年生):全体



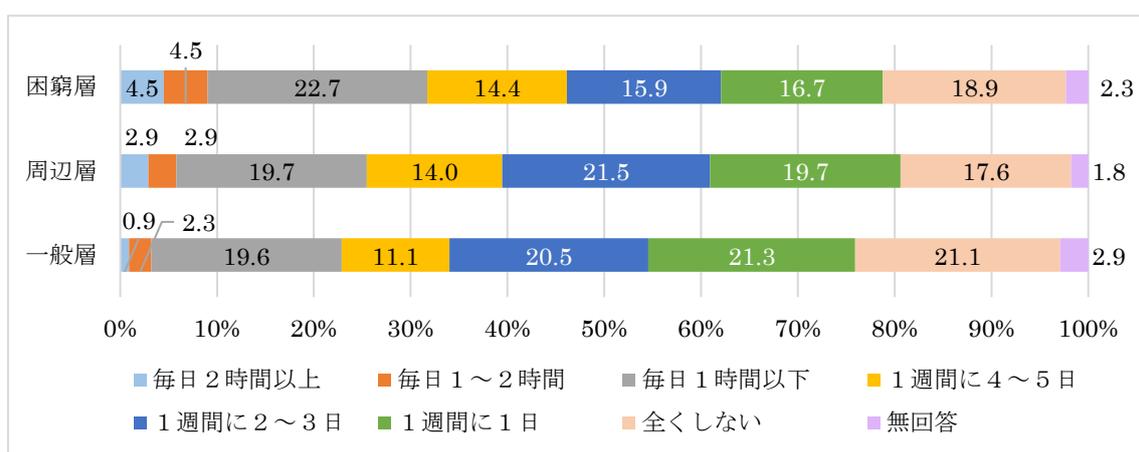
図表 5-2-8 家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)をする頻度(中学 2 年生) :全体



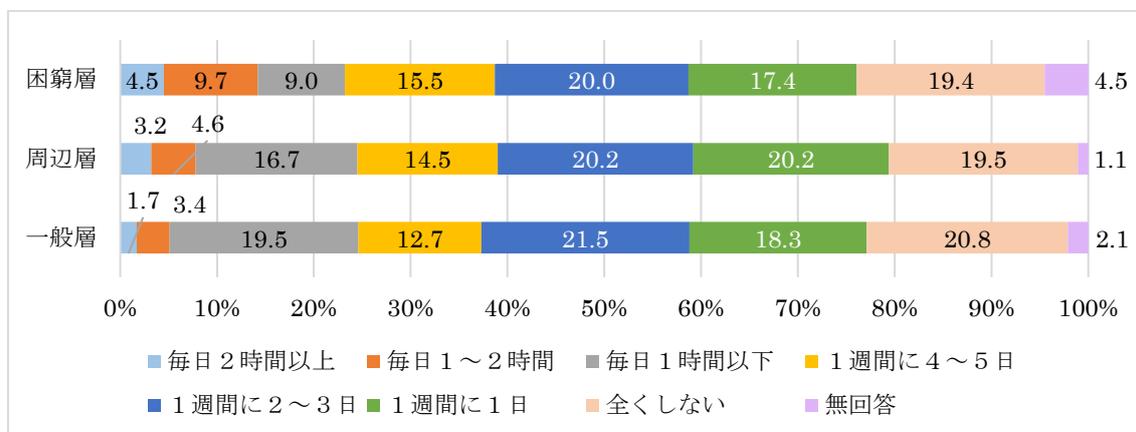
小学 5 年生において、生活困難度別で見ると、統計的に有意な差が見られ、「毎日 2 時間以上」家事をしていると答えたのは、困窮層では 4.5%、周辺層では 2.9%となっており、一般層の 0.9%より高くなっている。同様に、「毎日 1~2 時間」家事をしていると答えたのは、困窮層では 4.5%、周辺層では 2.9%となっており、一般層の 2.3%より高くなっている。

中学 2 年生においても、生活困難度別に統計的に有意な差が見られた。「毎日 2 時間以上」家事をしていると答えたのは、困窮層では 4.5%、周辺層では 3.2%、一般層では 1.7%となっており、周辺層が最も高くなっている。「毎日 1~2 時間」家事をしていると答えたのは、困窮層では 9.7%、周辺層では 4.6%、一般層 3.4%となっており、困窮層が最も高くなっている。

図表 5-2-9 家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)をする頻度(小学 5 年生):生活困難度別 (\*\*\*)



図表 5-2-10 家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)をする頻度(中学2年生):生活困難度別 (\*\*\*)

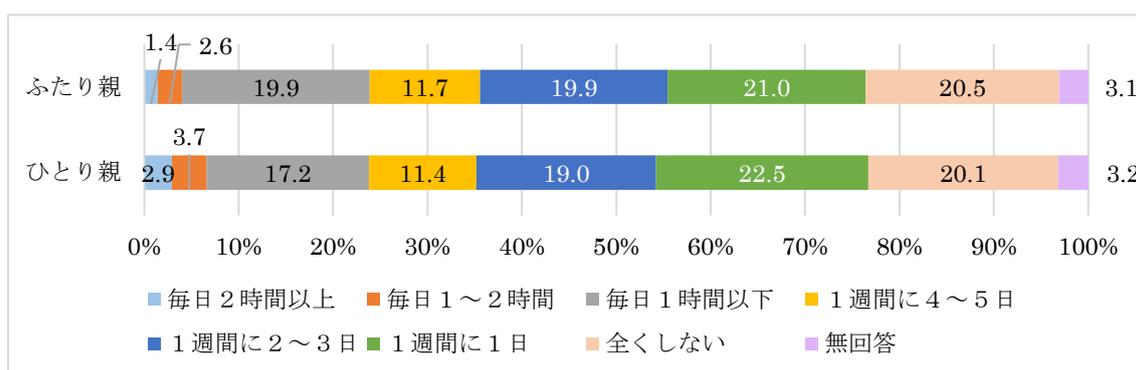


次に世帯タイプ別で見ていく。

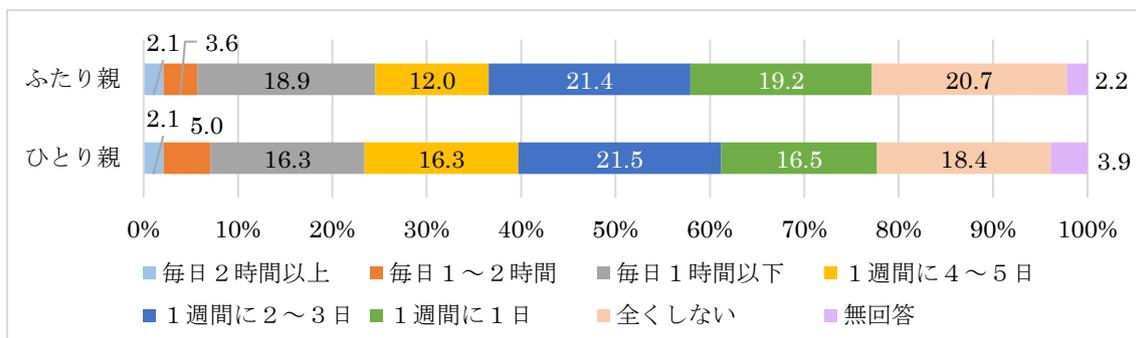
小学5年生において、世帯タイプ別では、統計的に有意な差はない。「毎日2時間以上」家事をしていると答えたのは、ひとり親世帯では2.9%となっており、ふたり親世帯の1.4%であった。「毎日1~2時間」家事をしていると答えたのは、ふたり親世帯では2.6%、ひとり親世帯の3.7%である。

中学2年生においては、世帯タイプ別で見ると、統計的に有意な差が見られ、「毎日2時間以上」家事をしていると答えたのは、ひとり親世帯では2.1%、ふたり親世帯でも2.1%ともなっている。

図表 5-2-11 家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)をする頻度(小学5年生):世帯タイプ別 (X)



図表 5-2-12 家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)をする頻度(中学 2 年生):世帯タイプ別 (\*\*)

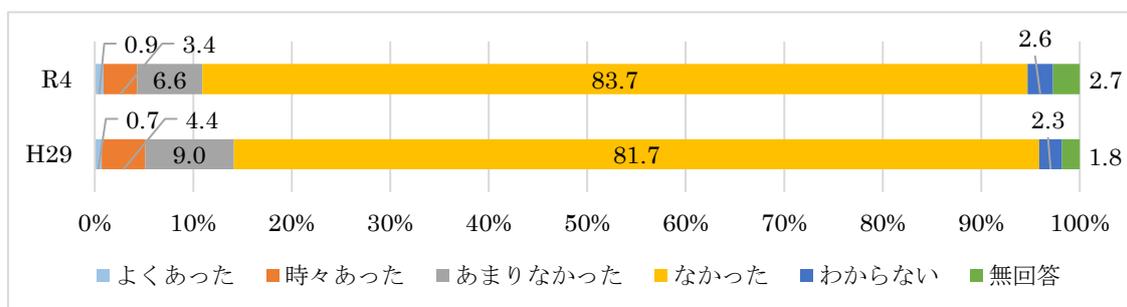


### (3) 夕方以降の留守番

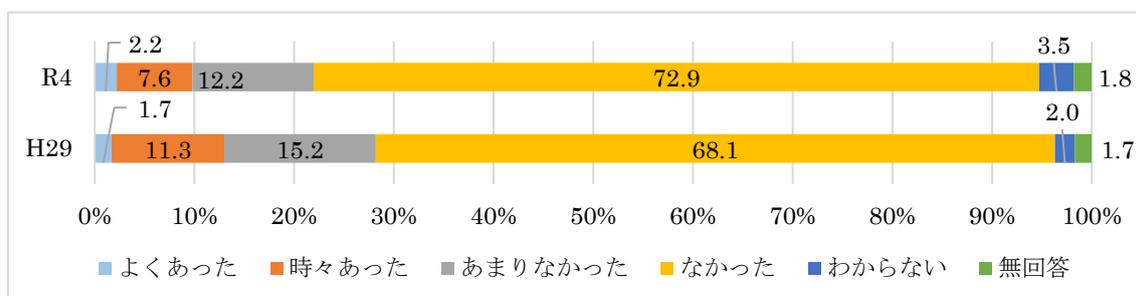
次に、子どもの夕方以降の留守番について見ていく。子ども票の間 32「あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。」のうち、「D 夜遅くまで子どもだけで過ごした」について分析を行った。結果は以下のとおりである。

小学 5 年生では、「よくあった」「時々あった」がそれぞれ 0.9%、3.4%であった。前回調査(H29)では、「よくあった」「時々あった」がそれぞれ 0.7%、4.4%であった。中学 2 年生では「よくあった」「時々あった」がそれぞれ 2.2%、7.6%となっている。前回調査(H29)では、「よくあった」「時々あった」がそれぞれ 1.7%、11.3%であった。

図表 5-2-13 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験(小学 5 年生):全体



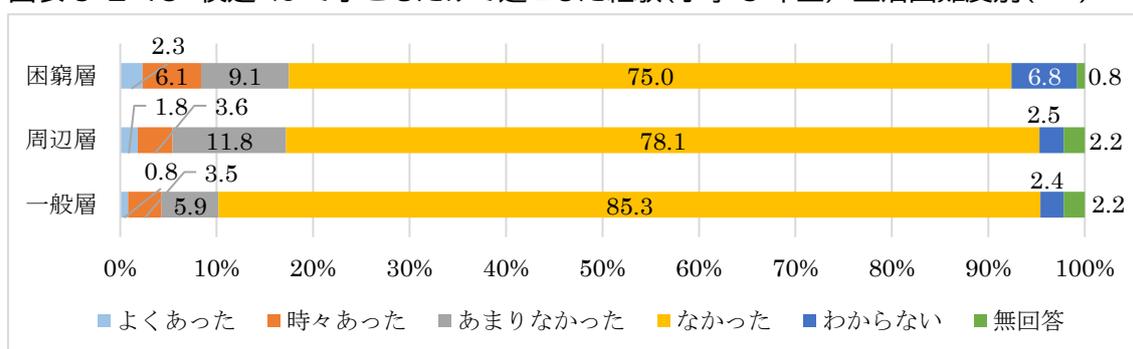
図表 5-2-14 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験(中学 2 年生):全体



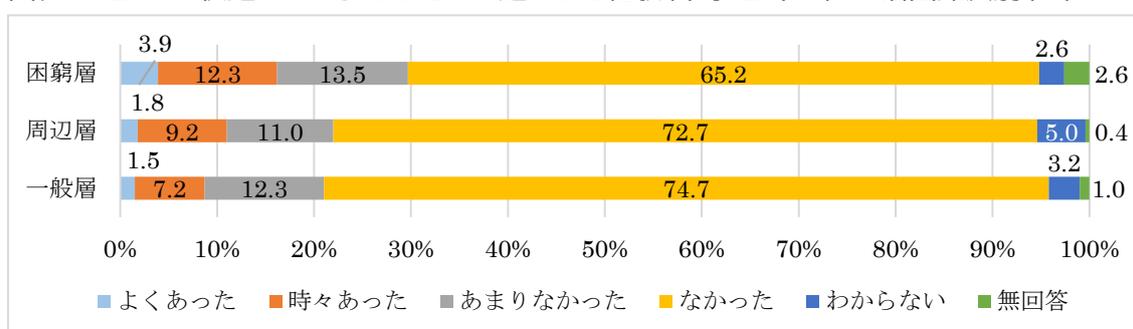
生活困難度別で見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても統計的に有意な差が見られた。小学 5 年生では、「よくあった」と答えた割合は、困窮層では 2.3%、周辺層では 1.8%となっており、一般層の 0.8%と比べてそれぞれ 1.5 ポイント、1.0 ポイント高くなっている。「時々あった」と答えた割合は、困窮層では 6.1%、周辺層では 3.6%、一般層では 3.5%となっており、困窮層で最も高くなっている。

中学 2 年生では、「よくあった」と答えた割合は、困窮層では 3.9%、周辺層では 1.8%となっており、一般層の 1.5%より高くなっている。「時々あった」と答えた割合は、困窮層では 12.3%、周辺層では 9.2%、一般層では 7.2%であり、困窮層で最も高くなっている。

図表 5-2-15 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



図表 5-2-16 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*)

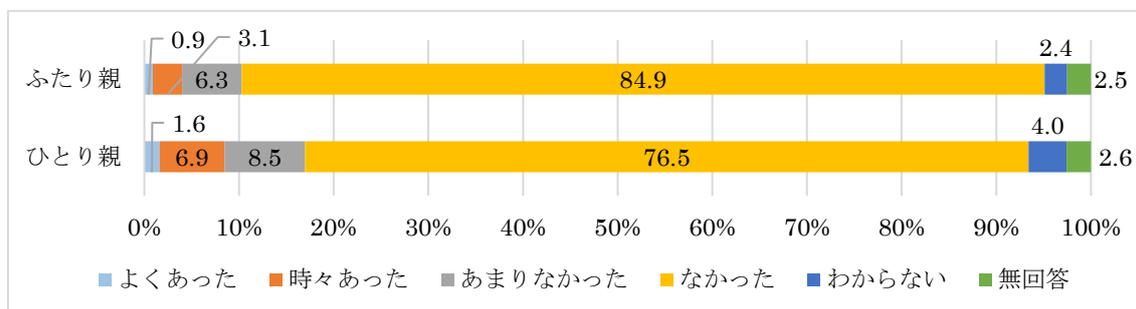


次に世帯タイプ別で見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても統計的に有意な差が見られた。

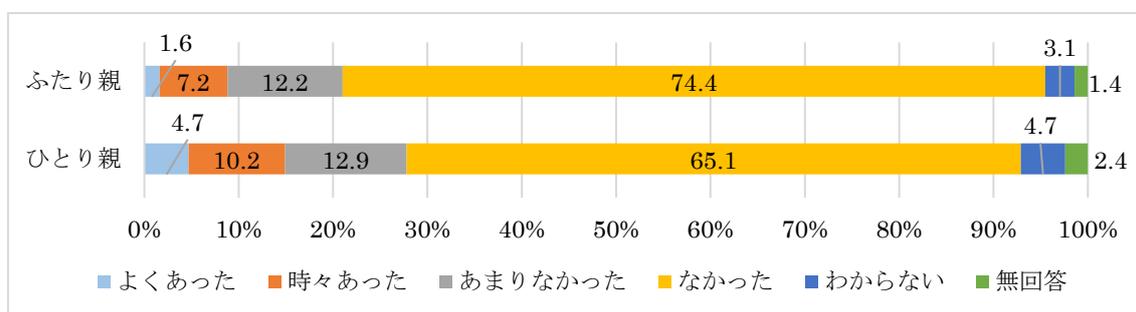
小学 5 年生では、「よくあった」と答えた割合は、ひとり親世帯では 1.6%となっており、ふたり親世帯の 0.9%に比べて高くなっている。また、「時々あった」と答えた割合も、ひとり親世帯では 6.9%となっており、ふたり親世帯の 3.1%に比べて、ひとり親世帯のほうが 3.8 ポイント高い。

中学 2 年生では、「よくあった」と答えた割合は、ひとり親世帯では 4.7%となっており、ふたり親世帯の 1.6%と比べて、ひとり親世帯のほうが 3.1 ポイント高い。また、「時々あった」と答えた割合も、ひとり親世帯では 10.2%となっており、ふたり親世帯の 7.2%と比べて、ひとり親世帯のほうが 3.0 ポイント高くなっている。

図表 5-2-17 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 5-2-18 夜遅くまで子どもだけで過ごした経験(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)

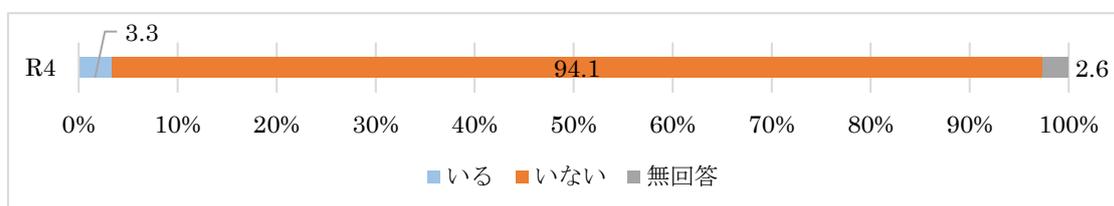


#### (4) 家族の世話や介護

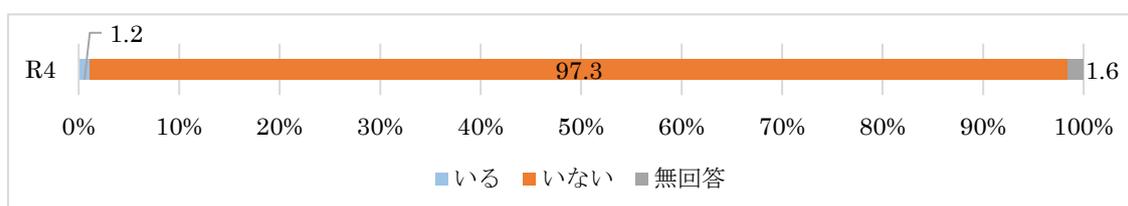
ここでは、子どもによる家族の世話や介護について見ていく。子ども票の問 14「あなたは、1日に2時間以上自分が世話や介護をしなければいけない家族がいますか。」という設問の結果を集計した。結果は以下のとおりである。

小学 5 年生では、3.3%が 1 日に 2 時間以上自分が世話や介護をしなければならない家族が「いる」と回答している。中学 2 年生では、1.2%が 1 日に 2 時間以上自分が世話や介護をしなければならない家族が「いる」と回答している。

図表 5-2-19 家族の世話や介護(小学 5 年生):全体

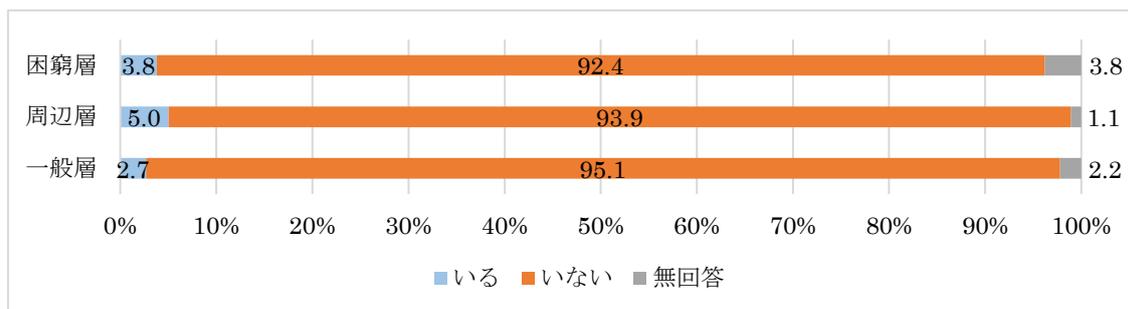


図表 5-2-20 家族の世話や介護(中学 2 年生):全体

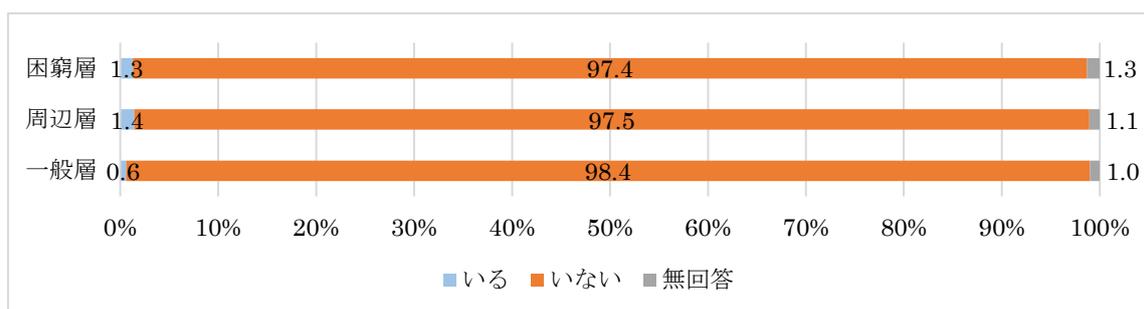


次に生活困難度別で見ていく。小学 5 年生では、生活困難度別において、統計的に有意な差が見られた。「いる」と答えた割合は、困窮層では 3.8%、周辺層では 5.0%となっており、一般層の 2.7%と比べてそれぞれ 1.1 ポイント、2.3 ポイント高くなっている。中学 2 年生では、生活困難度別において、統計的に有意な差は見られなかった。

図表 5-2-21 家族の世話や介護(小学 5 年生):生活困難度別(\*)

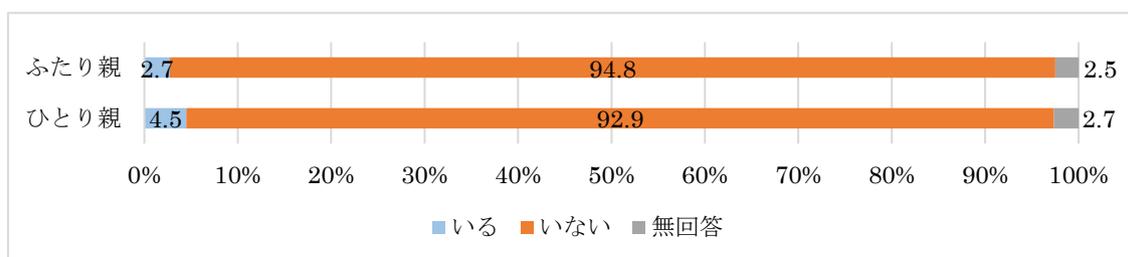


図表 5-2-22 家族の世話や介護(中学 2 年生):生活困難度別(X)

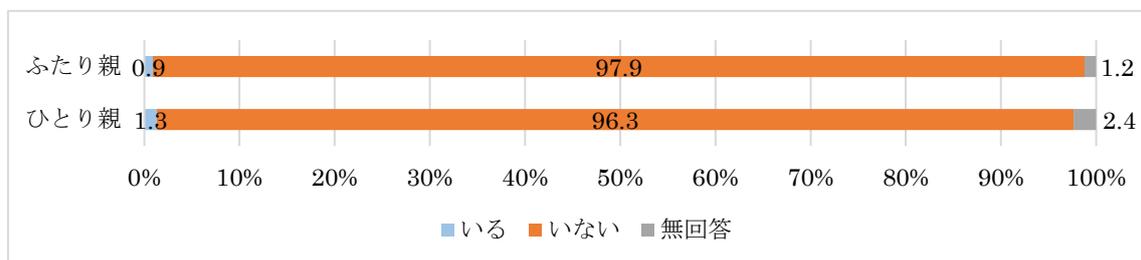


次に世帯タイプ別で見ていく。小学 5 年生ではひとり親世帯のほうが「いる」の割合が 1.8 ポイント高いものの、統計的に有意な差ではなかった。中学 2 年生についても統計的に有意な差は見られなかった。

図表 5-2-23 家族の世話や介護(小学 5 年生):世帯タイプ別(X)



図表 5-2-24 家族の世話や介護(中学 2 年生):世帯タイプ別(X)

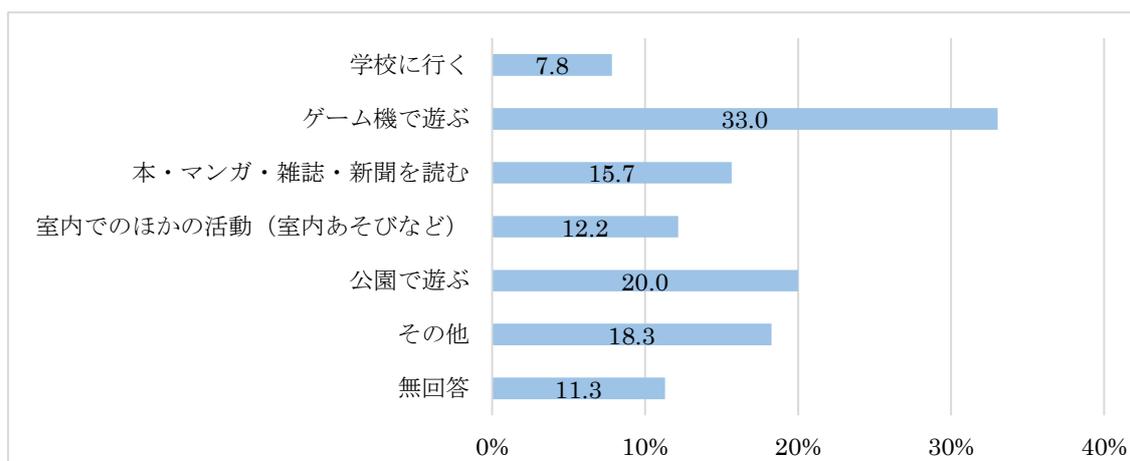


次に、「いる」と答えた人に「それによって減ったことやできなくなったことは何ですか。」と聞き、「学校に行く」「ゲーム機で遊ぶ(パソコン・スマホ・タブレットを用いたゲームを含む)」「本・マンガ・雑誌・新聞を読む(パソコン・スマホ・タブレットで読むものを含む)」「室内でのほかの活動(室内あそびなど)」「公園で遊ぶ」「その他」の中から当てはまるものを複数回答してもらった。集計結果は以下のとおりである。

小学 5 年生では、「その他」を除いて多い順に、「ゲーム機で遊ぶ(パソコン・スマホ・タブレットを用いたゲームを含む)」が 33.0%、「公園で遊ぶ」が 20.0%、「本・マンガ・雑誌・新聞を読む(パソコン・スマホ・タブレットで読むものを含む)」が 15.7%であった。また、「学校に行く」という回答も 7.8%みられた。

中学 2 年生では、「その他」を除いて多い順に、「ゲーム機で遊ぶ(パソコン・スマホ・タブレットを用いたゲームを含む)」が 38.9%、「本・マンガ・雑誌・新聞を読む(パソコン・スマホ・タブレットで読むものを含む)」が 19.4%、「学校に行く」「室内でのほかの活動(室内あそびなど)」「公園で遊ぶ」がそれぞれ 5.6%であった。

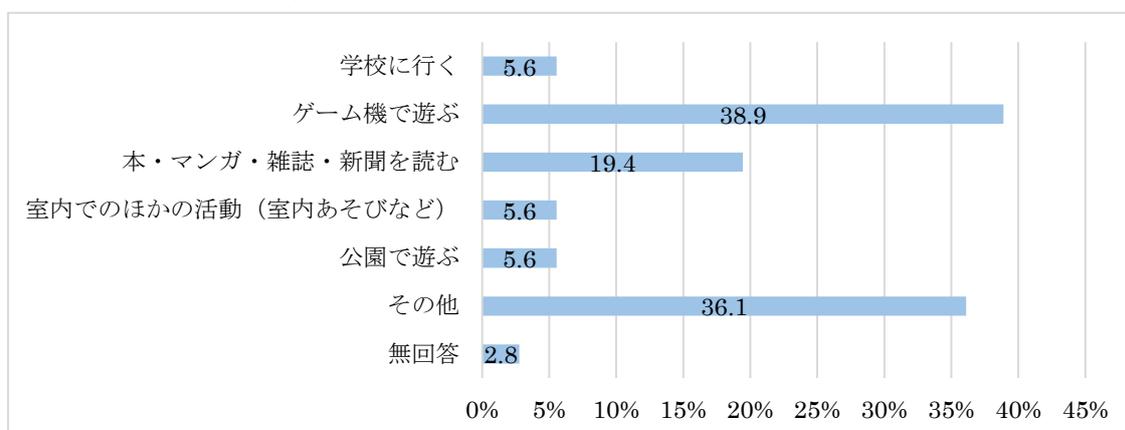
図表 5-2-25 家族の世話や介護によって減ったことやできなくなったこと(小学 5 年生):全体(複数回答)(n=115)



※無回答は、欠損処理をして分析を行った。また、「あなたは、1日に2時間以上自分が世話や介護をしなければならない家族がいますか」に対して、「いない」と回答している場合でも、「それによって減ったことやできなくなったことは何ですか」に対して回答している場合は、「いる」として分析を行った。

※「ゲーム機で遊ぶ(パソコン、スマホ、タブレット用いたゲームを含む)」は「ゲーム機で遊ぶ」、「本・マンガ・雑誌・新聞を読む(パソコン・スマホ・タブレットで読むものを含む)」は「本・マンガ・雑誌・新聞を読む」と省略している。

図表 5-2-26 家族の世話や介護によって減ったことやできなくなったこと(中学 2 年生):全体(複数回答) (n=36)

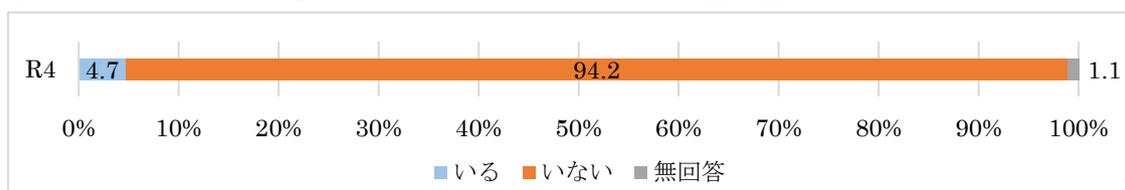


※無回答は、欠損処理をして分析を行った。また、「あなたは、1日に2時間以上自分が世話や介護をしなければならない家族がいますか」に対して、「いない」と回答している場合でも、「それによって減ったことやできなくなったことは何ですか」に対して回答している場合は、「いる」として分析を行った。  
 ※「ゲーム機で遊ぶ(パソコン、スマホ、タブレット用いたゲームを含む)」は「ゲーム機で遊ぶ」、「本・マンガ・雑誌・新聞を読む(パソコン・スマホ・タブレットで読むものを含む)」は「本・マンガ・雑誌・新聞を読む」と省略している。

次に、保護者票の問 6「お子さんと同居しているご家族の中に、高齢であったり障害があるなど、介護が必要な方はいますか。」という設問を利用して、介護が必要な同居家族の有無について集計を行った。結果は以下のとおりである。

小学 5 年生では、介護が必要な同居家族が「いる」と回答した保護者は 4.7%であった。中学 2 年生では、介護が必要な同居家族が「いる」と回答した保護者は、5.2%であった。

図表 5-2-27 介護が必要な同居家族の有無(小学 5 年生):全体



図表 5-2-28 介護が必要な同居家族の有無(中学 2 年生):全体



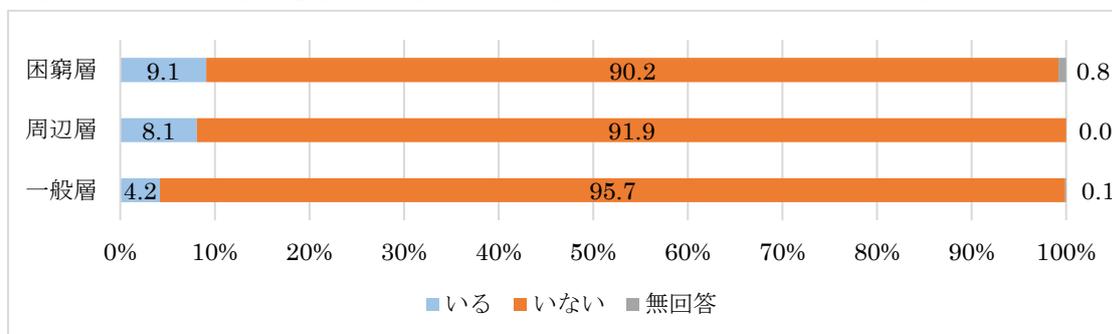
次に、生活困難度別で見ていく。

小学 5 年生では、生活困難度別において、統計的に有意な差が見られた。介護が必要な同居家族が「いる」と答えた割合は、困窮層では 9.1%、周辺層では 8.1%となっており、一般層の 4.2%と比べて、それぞれ 4.9 ポイント、3.9 ポイント高くなっている。

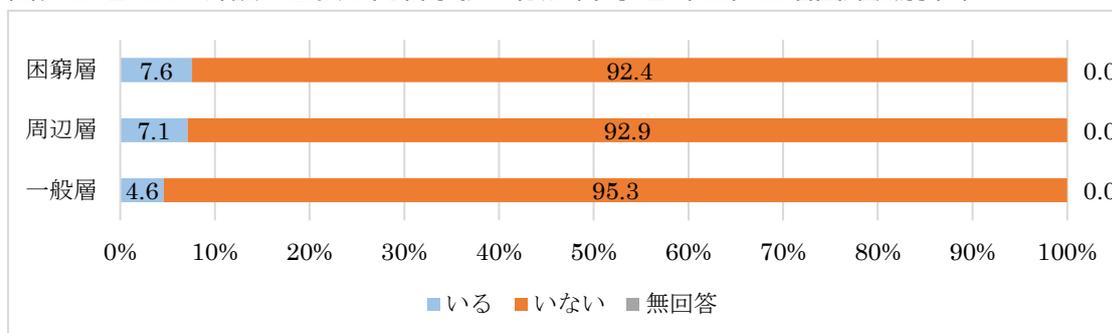
中学 2 年生では、生活困難度別においては、統計的に有意な差が見られなかったが、介護が

必要な同居家族が「いる」と答えた割合は、困窮層では 7.6%、周辺層では 7.1%となっており、一般層の 4.6%と比べて、それぞれ 3.0 ポイント、2.5 ポイント高くなっている。

図表 5-2-29 介護が必要な同居家族の有無(小学 5 年生):生活困難度別(\*\*\*)



図表 5-2-30 介護が必要な同居家族の有無(中学 2 年生):生活困難度別(x)

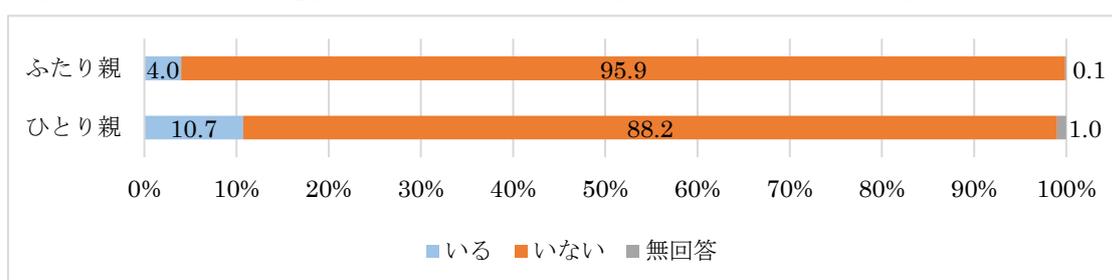


世帯タイプ別で見ると、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれにおいても、統計的に有意な差が見られた。

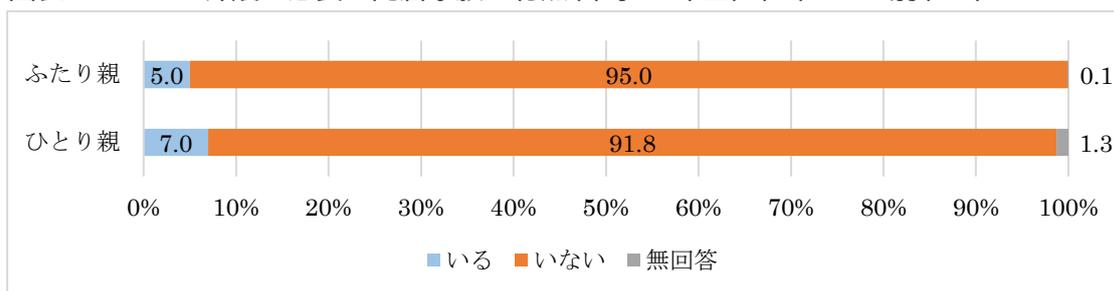
小学 5 年生では、介護が必要な同居家族が「いる」と答えた割合は、ひとり親世帯では 10.7%となっており、ふたり親世帯の 4.0%と比べて、ひとり親世帯のほうが 6.7 ポイント高くなっている。

中学 2 年生では、介護が必要な同居家族が「いる」と答えた割合は、ひとり親世帯では 7.0%となっており、ふたり親世帯の 5.0%と比べて、ひとり親世帯のほうが 2.0 ポイント高い。

図表 5-2-31 介護が必要な同居家族の有無(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



図表 5-2-32 介護が必要な同居家族の有無(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



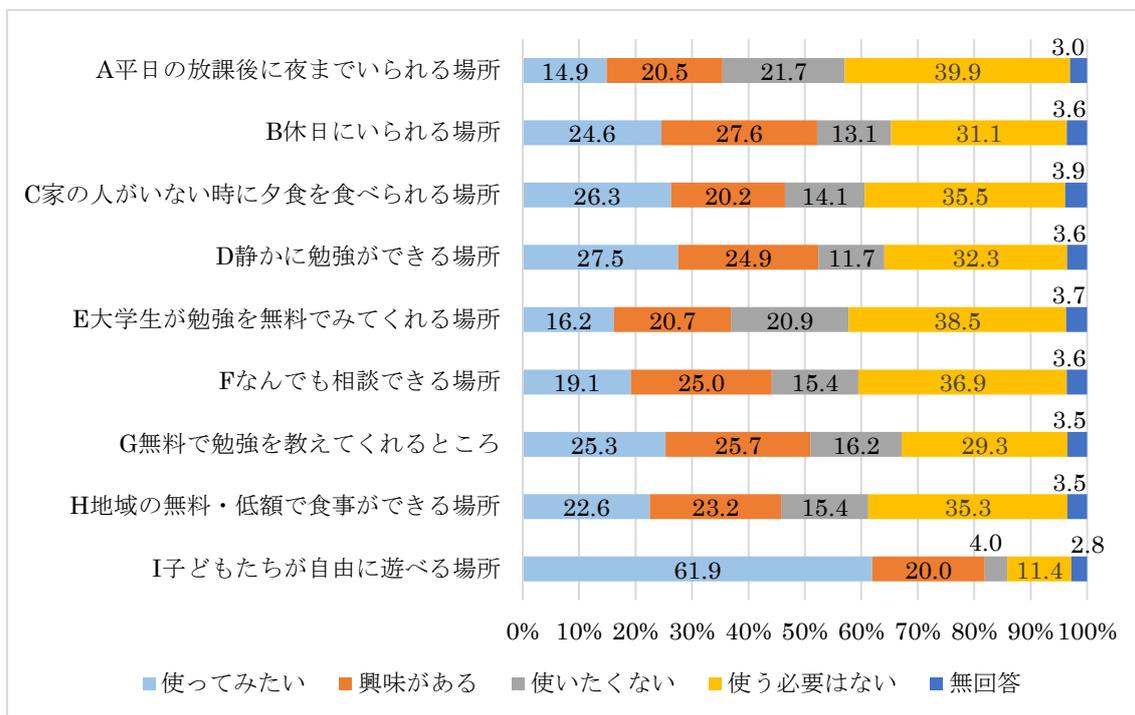
### 3. 居場所支援・相談事業の利用意向

子どもの居場所支援・相談事業の利用意向について、子ども票の間 31「あなたは、以下のよ  
うな場所があれば使ってみたいと思いますか。」を利用して集計した。

小学 5 年生では、「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合が高い順に、「I 子どもた  
ちが自由に遊べる場所」(81.9%)、「D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」  
(52.4%)、「B(家以外で)休日にいることができる場所」(52.1%)となっている。

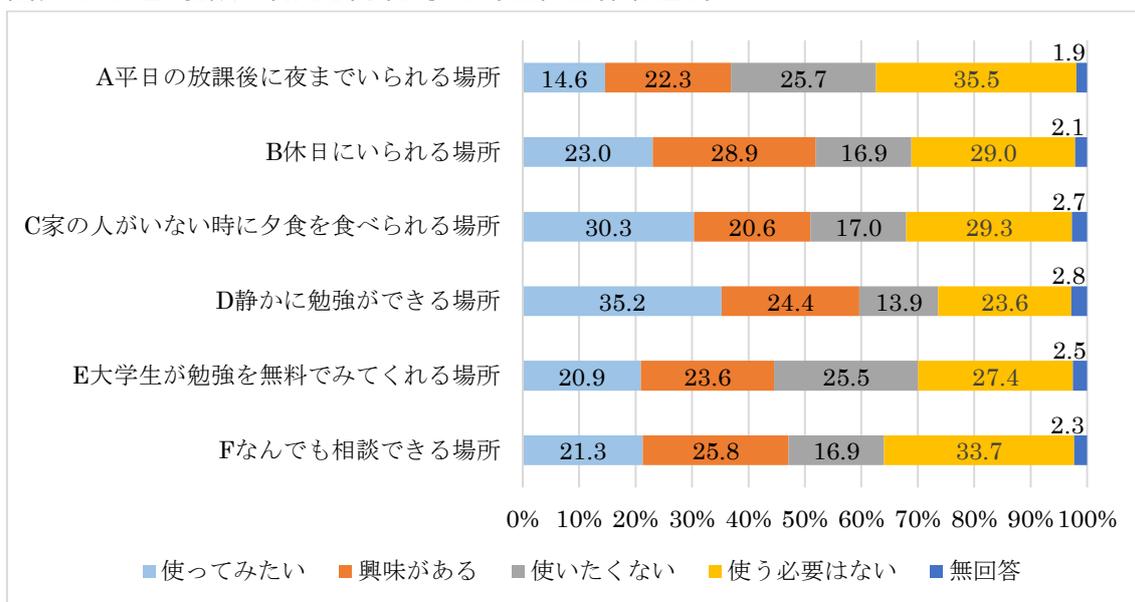
また、前回調査(H29)においては、「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合が高い  
順に「D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」(59.6%)、「B(家以外で)休日にい  
ることができる場所」(51.9%)、「C 家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることがで  
きる場所」(50.9%)となっていた。

図表 5-3-1 施設の利用意向(小学 5 年生):全体(R4)



※調査票における「A(家以外)平日の放課後に夜までいることができる場所」「B(家以外)休日にいることができる場所」「C 家の人がいなない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」「D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」「F(学校以外)なんでも相談できる場所」「H 地域のおとながやっている無料、または低額で食事ができる場所」との表記を、作図の都合上「A 平日の放課後に夜までいられる場所」「B 休日にいられる場所」「C 家の人がいなない時に夕食を食べられる場所」「D 静かに勉強ができる場所」「E 大学生が勉強を無料でみてくれる場所」「F なんでも相談できる場所」「H 地域の無料・低額で食事ができる場所」とした。

図表 5-3-2 施設の利用意向(小学 5 年生):全体(H29)

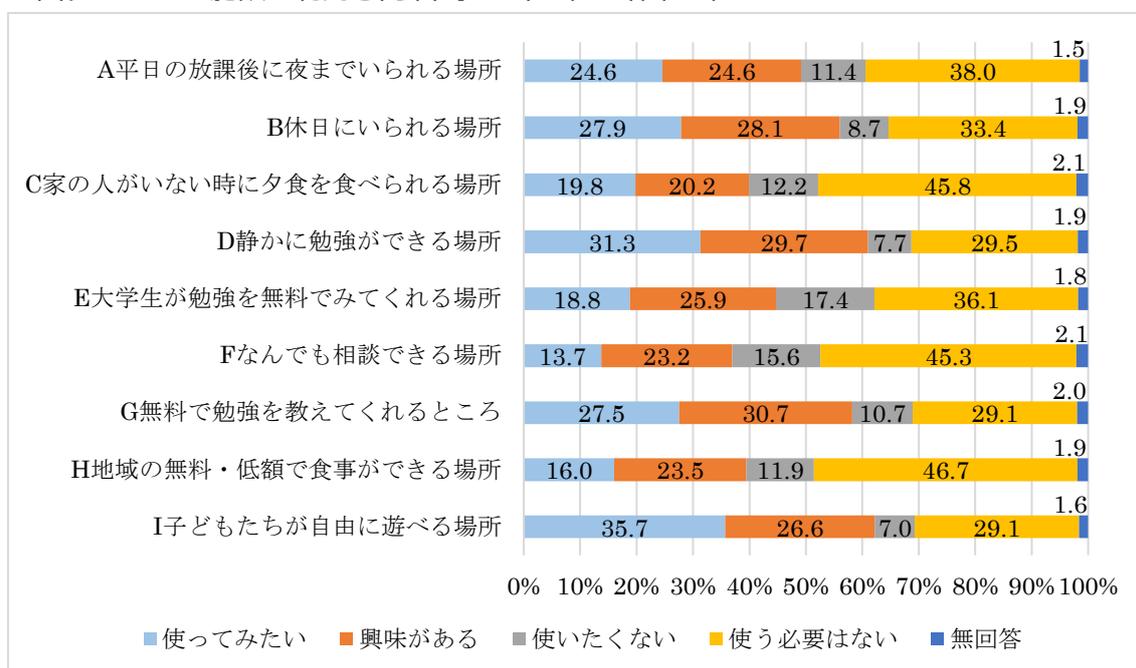


※調査票における「A(家以外)平日の放課後に夜までいることができる場所」「B(家以外)休日にいることができる場所」「C 家の人がいなない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」「D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」「F(学校以外)なんでも相談できる場所」との表記を、作図の都合上「A 平日の放課後に夜までいられる場所」「B 休日にいられる場所」「C 家の人がいなない時に夕食を食べられる場所」「D 静かに勉強ができる場所」「E 大学生が勉強を無料でみてくれる場所」「F なんでも相談できる場所」とした。

次に、中学2年生においても、居場所支援・相談事業の利用意向について集計した。「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合が高い順に、「I 子どもたちが自由に遊べる場所」(62.2%)、「D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」(61.0%)、「G 無料で勉強を教えてくれるところ」(58.2%)となっている。

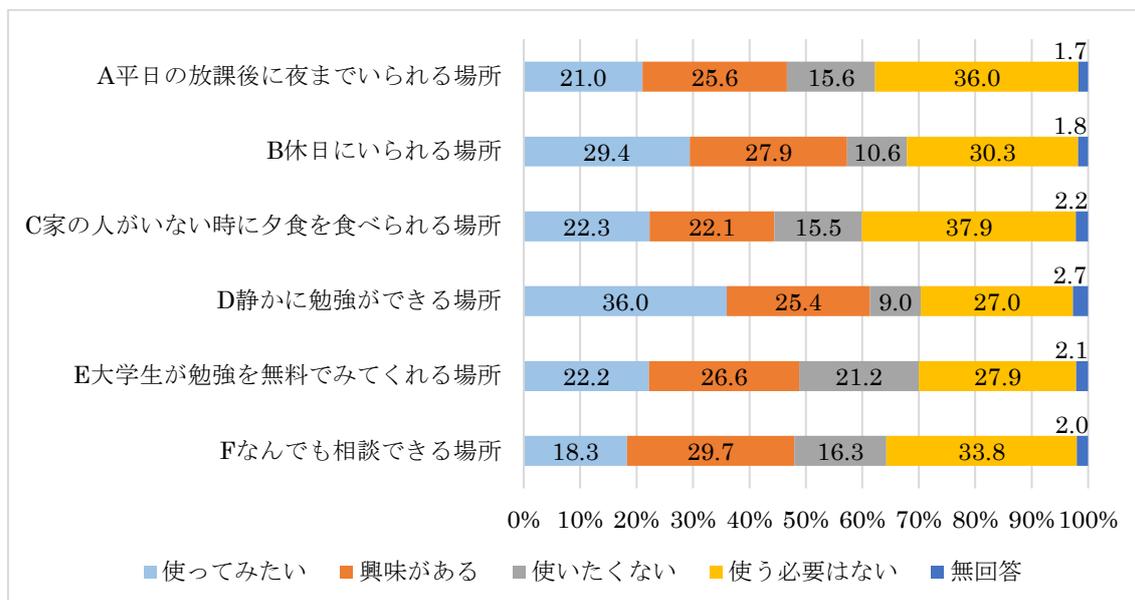
また、前回調査(H29)においては、「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合が高い順に、「D 家で勉強できない時、静かに勉強できる場所」(61.4%)、「B(家以外で)休日にいることができる場所」(57.3%)、「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」(48.8%)となっていた。

図表 5-3-3 施設の利用意向(中学2年生):全体(R4)



※調査票における「A(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所」「B(家以外で)休日にいることができる場所」「C 家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」「D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」「F(学校以外で)なんでも相談できる場所」「H 地域のおとながやっている無料、または低額で食事ができる場所」との表記を、作図の都合上「A 平日の放課後に夜までいられる場所」「B 休日にいられる場所」「C 家の人がない時に夕食を食べられる場所」「D 静かに勉強ができる場所」「E 大学生が勉強を無料でみてくれる場所」「F なんでも相談できる場所」「H 地域の無料・低額で食事ができる場所」とした。

図表 5-3-4 施設の利用意向(中学 2 年生):全体(H29)

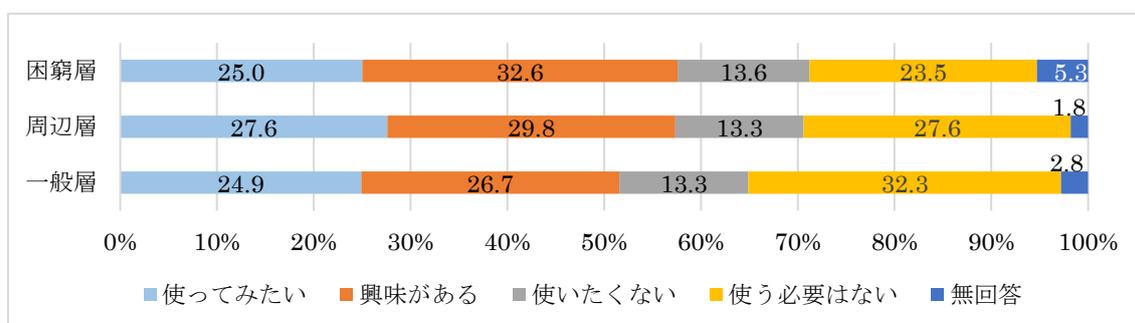


※調査票における「A(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所」「B(家以外で)休日にいることができる場所」「C 家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」「D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」「F(学校以外で)なんでも相談できる場所」との表記を、作図の都合上「A 平日の放課後に夜までいられる場所」「B 休日にいられる場所」「C 家の人がない時に夕食を食べられる場所」「D 静かに勉強ができる場所」「E 大学生が勉強を無料でみてくれる場所」「F なんでも相談できる場所」とした。

次に、子どもの居場所支援・相談事業の利用意向について生活困難度別にそれぞれの項目を集計した。以下では、小学 5 年生の結果について、一部の項目を抜粋して<sup>2</sup>、生活困難度による違いを見ていく(すべての項目のうち、「F(学校以外で)なんでも相談できる場所」のみで統計的に有意な差が見られた)。

「B(家以外で)休日にいることができる場所」については、統計的に有意な差がなかったものの、「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合が、困窮層では 57.6%、周辺層では 57.4%、一般層では 51.6%となっており、一般層が他の層よりも割合が少し低い。

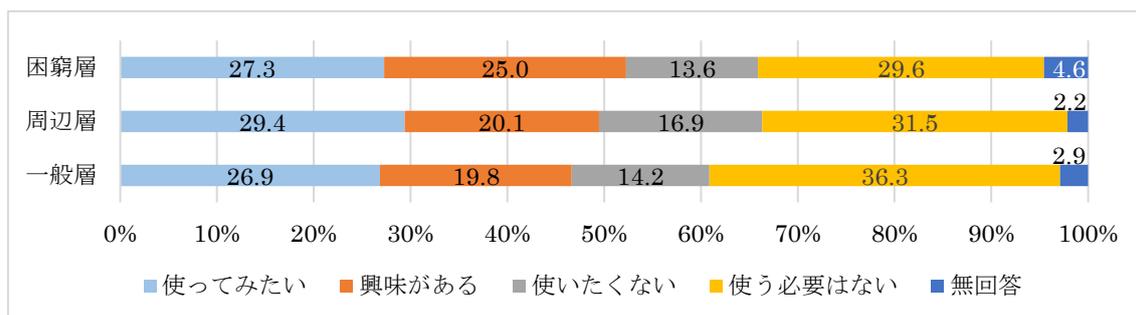
図表 5-3-5 B(家以外で)休日にいることができる場所の利用意向(小学 5 年生):生活困難度別(X)



<sup>2</sup> 「D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」、「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」、「G 無料で勉強を教えてくれるところ」の生活困難度別の比較は第 4 章 5 節に掲載

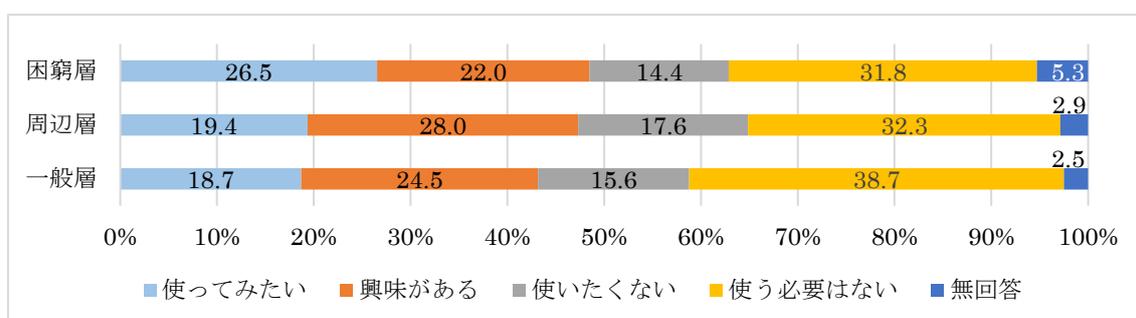
「C 家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」については、統計的に有意な差がなかったものの、生活困難度が低くなるほど利用意向が少なくなっており、「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合が、困窮層では 52.3%、周辺層では 49.5%、一般層では 46.7%となっている。

図表 5-3-6 C 家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所の利用意向(小学 5 年生):生活困難度別(X)



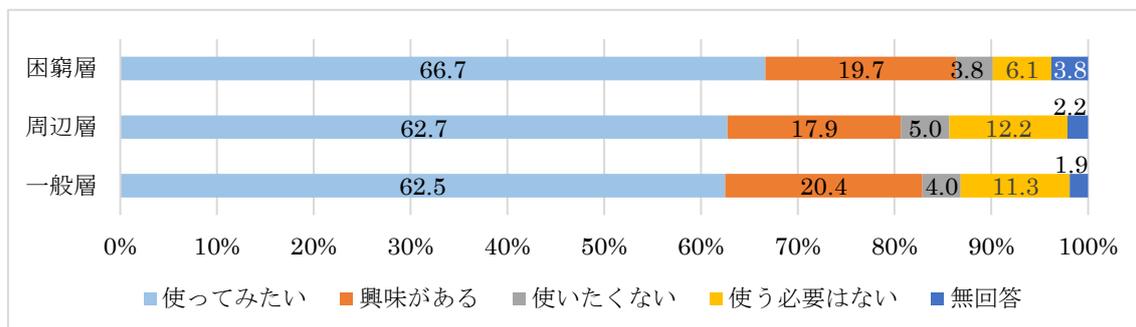
「F(学校以外で)なんでも相談できる場所」については、生活困難度が低くなるほど、利用意向が少なくなっており、統計的に有意な差があった。「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合は、困窮層では 48.5%、周辺層では 47.3%、一般層では 43.2%であった。

図表 5-3-7 F(学校以外で)なんでも相談できる場所の利用意向(小学 5 年生):生活困難度別(\*)



「I 子どもたちが自由に遊べる場所」については、統計的に有意な差が見られなかった。「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合は、困窮層では 86.4%、周辺層では 80.6%、一般層では 82.9%で、困窮層、一般層、周辺層の順に低い。

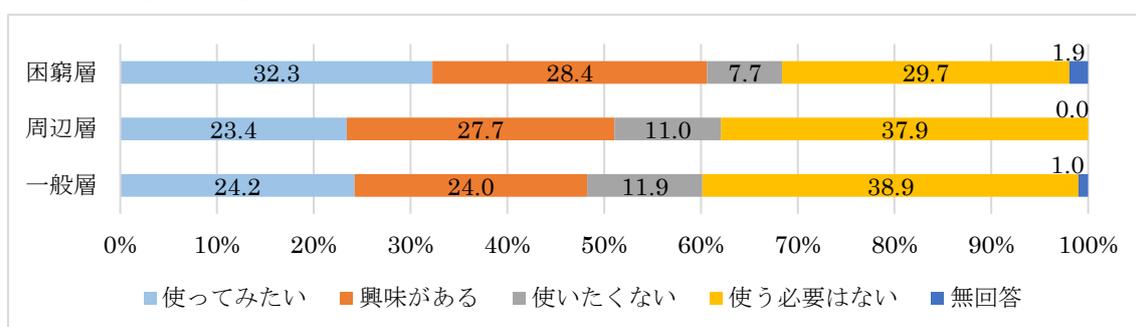
図表 5-3-8 I 子どもたちが自由に遊べる場所の利用意向(小学 5 年生):生活困難度別(X)



次に、中学 2 年生でも同様に、生活困難度別にそれぞれの項目を集計した。以下では、一部の項目を抜粋して<sup>3</sup>、生活困難度による違いを見ていく(すべての項目のうち、「A(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所」「C 家の人がいない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」「H 地域のおとながやっている無料、または低額で食事ができる場所」で統計的に有意な差が見られた)。

「A(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所」については、生活困難度が低くなるほど利用意向が少なくなっており、統計的に有意な差が見られた。「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合は、困窮層では 60.7%、周辺層では 51.1%、一般層では 48.2%となっている。

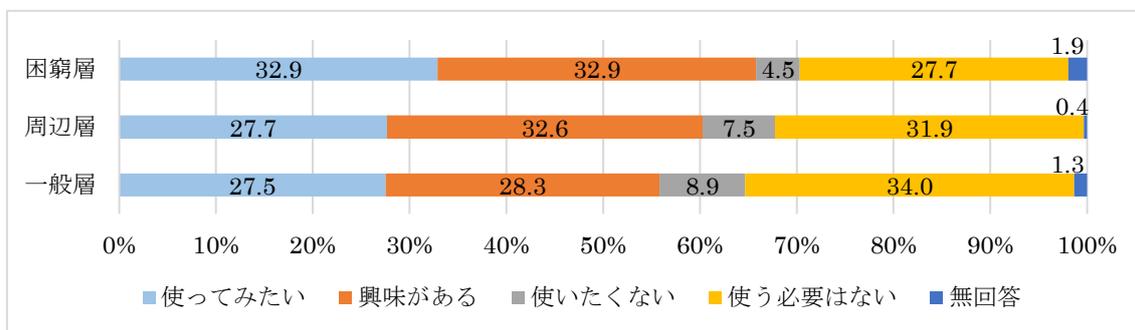
図表 5-3-9 A(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所の利用意向(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*)



「B(家以外で)休日にいることができる場所」については、統計的に有意な差がなかったものの、生活困難度が低くなるほど利用意向が少なくなっており、「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合が、困窮層では 65.8%、周辺層では 60.3%、一般層では 55.8%となっている。

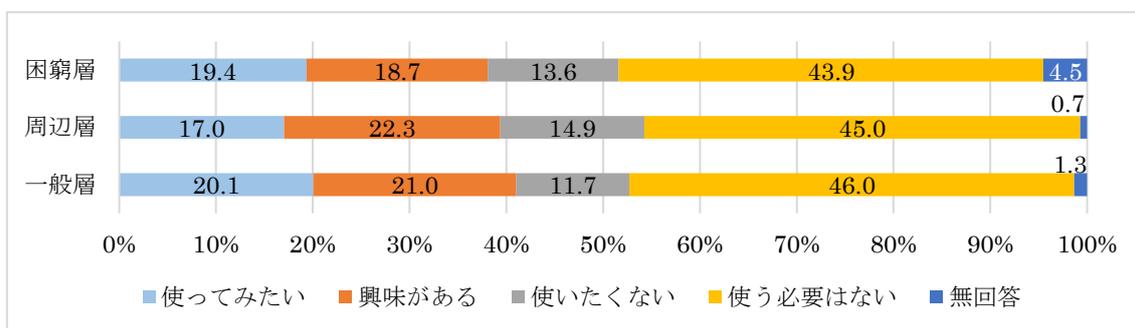
<sup>3</sup> 「D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」「G 無料で勉強を教えてくれるところ」の生活困難度別の比較は第 4 章 5 節に掲載

図表 5-3-10 B(家以外で)休日にいることができる場所の利用意向(中学 2 年生):生活困難度別(X)



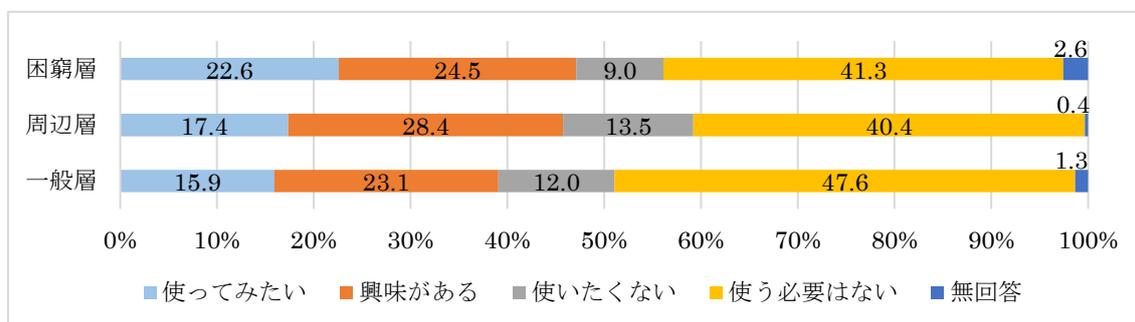
「C 家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」については、統計的に有意な差が見られたものの、層ごとの利用意向の割合に大きな違いはなく、「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合は、困窮層では 38.1%、周辺層では 39.4%、一般層では 41.0%であった。

図表 5-3-11 C 家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所の利用意向(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*)



「H 地域のおとながやっている無料、または低額で食事ができる場所」については、生活困難度が低くなるほど利用意向が少なくなっており、統計的に有意な差が見られた。「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合は、困窮層では 47.1%、周辺層では 45.8%、一般層では 39.1%であった。

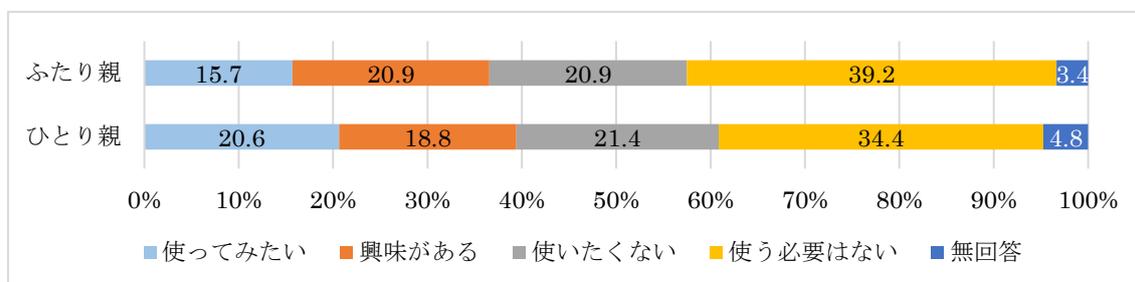
図表 5-3-12 H 地域のおとながやっている無料、または低額で食事ができる場所の利用意向(中学 2 年生):生活困難度別(\*\*)



次いで、子どもの居場所支援・相談事業の利用意向について世帯タイプ別にそれぞれの項目を集計した。以下では、小学 5 年生の結果について、一部の項目を抜粋して<sup>4</sup>、世帯タイプによる違いを見ていく(すべての項目のうち、「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」のみで統計的に有意な差が見られた)。

「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」については、ひとり親世帯の方が利用意向が多くなっており、統計的に有意な差があった。「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合は、ふたり親世帯では 36.6%、ひとり親世帯では 39.4%であった。

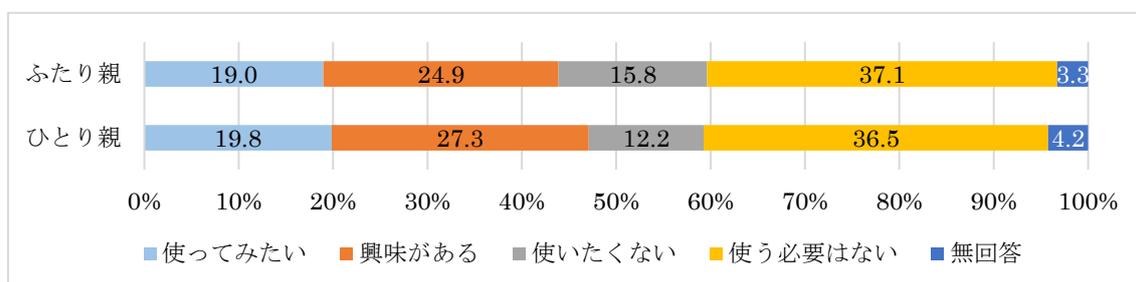
図表 5-3-13 E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所の利用意向(小学 5 年生):世帯タイプ別(\*\*)



「F(学校以外で)なんでも相談できる場所」については、ひとり親世帯の方では利用意向が多くなっていったが、統計的に有意な差はなかった。「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合は、ふたり親世帯では 43.9%、ひとり親世帯では 47.1%であった。

<sup>4</sup> 「D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」「G 無料で勉強を教えてくれるところ」の世帯タイプ別の比較は第 4 章 5 節に掲載

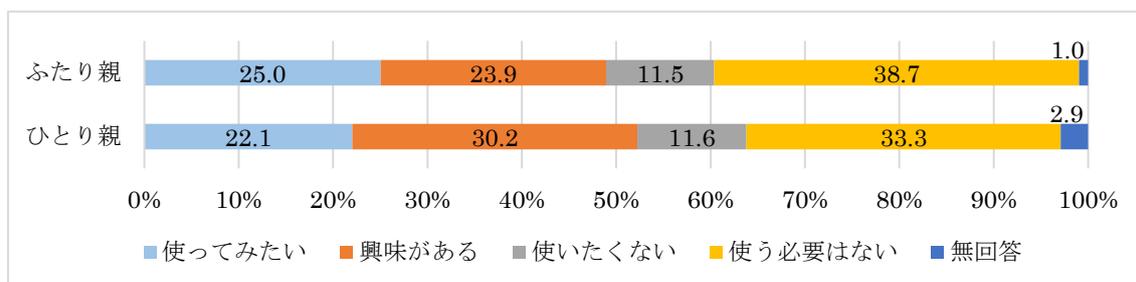
図表 5-3-14 F(学校以外で)なんでも相談できる場所の利用意向(小学 5 年生):世帯タイプ別(X)



次いで、中学 2 年生においても、世帯タイプ別にそれぞれの項目を集計した。以下では、一部の項目を抜粋して<sup>5</sup>、世帯タイプによる違いを見ていく(すべての項目のうち、「A(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所」「B(家以外で)休日にいることができる場所」「C 家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」「F(学校以外で)なんでも相談できる場所」「H 地域のおとながやっている無料、または低額で食事ができる場所」「I 子どもたちが自由に遊べる場所」で統計的に有意な差が見られた)。

「A(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所」については、ひとり親世帯の方では利用意向が多くなっており、統計的に有意な差があった。「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合は、ふたり親世帯では 48.9%、ひとり親世帯では 52.2%であった。

図表 5-3-15 A(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所の利用意向(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*\*)



「H 地域のおとながやっている無料、または低額で食事ができる場所」については、ひとり親世帯の方では利用意向が多くなっていたが、統計的に有意な差はなかった。「使ってみたい」と「興味がある」を合計した割合は、ふたり親世帯では 39.1%、ひとり親世帯では 42.3%であった。

<sup>5</sup> 「D 家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」「E 大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」「G 無料で勉強を教えてくれるところ」の世帯タイプ別の比較は第 4 章 5 節に掲載

図表 5-3-16 H 地域のおとながやっている無料、または低額で食事ができる場所の利用意向(中学 2 年生):世帯タイプ別(\*\*)

